

日本外交文書

第二次欧州大戦と日本

第二冊

日付索引

日本外交文書 第二次欧州大戦と日本 第二冊 日付索引

事項 番号	文書 番号	日付	電信 番号	発・受信者	件名	頁
四	212	昭和十三年 昭和十三年十一月二十三日	三七八	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	ダンチヒをめぐる独波交渉開始の情報報告……………	307
四	213	昭和十三年十一月二十七日	三八二	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	ソ連との関係改善に関する波蘭政府発表について……………	307
四	214	昭和十三年十一月二十九日	九三八	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	ソ連と波蘭の接近が独波関係を悪化させたとの観測報告……………	308
四	215	昭和十三年十二月四日	三八四	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	ソ連との関係改善に関する波蘭外務当局の説明振りについて……………	309
四	216	昭和十三年十二月二十二日	四一七	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	対独関係などに関するベック波蘭外相の時局談について……………	310
四	217	昭和十四年 昭和十四年一月十二日	四	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	ヒトラー総統とベック外相の会談内容に関する情報について……………	311
四	218	昭和十四年一月二十六日	一五	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	対独関係に関するベック内話について……………	313
四	219	昭和十四年二月一日	一一一	在ソ連邦東郷大使より 有田外務大臣宛(電報)	ソ連要路における対独接近の底意について……………	314

四	232	昭和14年4月15日	三〇三	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	米国の対独伊平和通牒について	329
四	231	昭和14年4月15日	二二六	在仏国宮崎臨時代理大使より 有田外務大臣宛(電報)	欧州情勢の緊迫化に対する仏国動静につき 報告	328
四	230	昭和14年4月13日	九六	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	英波間の防守協定交渉に関するベック内話 について	326
四	229	昭和14年4月5日	三四九	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	英国の対独包囲政策など欧州情勢の見直し につき報告	323
四	228	昭和14年4月5日	三二三	在独国外務大臣宛(電報)	対波関係に関する独国外相の内話について	323
四	227	昭和14年4月4日	三四二	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	英国首相の対波援助声明に関する観測報告	321
四	226	昭和14年3月31日	三三一	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	波蘭独立を脅威する事態が発生すれば対波 援助を行うとの英国首相声明について	320
四	225	昭和14年3月28日	二八五	在独国外務大臣宛(電報)	英国の対独防衛共同宣言提案に関する独国外 務次官補の内話について	320
四	224	昭和14年3月28日	二八四	在独国外務大臣宛(電報)	ドイツの対波政策に関する波蘭大使との意 見交換について	319
四	223	昭和14年3月25日	六九	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	メーメル問題が波蘭に与えた影響について	318
四	222	昭和14年3月22日	二五七	在独国外務大臣宛(電報)	メーメル地方の対独返還をリトアニア政府 が声明したとのドイツ側発表表について	317
四	221	昭和14年3月5日	四二	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	対独関係悪化の背景に関する波蘭外務省東 方部長の内話について	316
四	220	昭和14年3月2日	三九	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	波蘭各地における反独運動の激化について	315

日付索引

四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233
昭和 14年 5月3日	昭和 14年 5月1日	昭和 14年 4月30日	昭和 14年 4月29日	昭和 14年 4月28日	昭和 14年 4月28日	昭和 14年 4月28日	昭和 14年 4月27日	昭和 14年 4月26日	昭和 14年 4月21日	昭和 14年 4月18日	昭和 14年 4月17日	昭和 14年 4月16日
四五六	四四七	三五〇	三八八	三八五	二五九	四三〇	二五六	一〇九	三二三	三〇八	三九二	三八七
在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在仏国宮崎臨時代理大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)
ソ連提示の広範な軍事同盟案には応じない 旨を英国外務次官内報について	英国におけるヒトラー演説の反響について	米国におけるヒトラー演説の反響について	対英・対波関係、対日伊関係、米国大統領 の平和通牒に関する回答などヒトラー演説 の要旨報告	英独海軍協定および独波不可侵条約の廃棄 をヒトラー声明について	英ソ提携交渉には極東問題を持ち出さない との英国外相言明について	英ソ提携協議の停滞に関する観測報告	英ソ提携の東洋に及ぼす影響につきクレ ーギー英国大使へ注意喚起について	欧州情勢に関する米国國務次官との意見交 換について	米国大統領による平和通牒発出の背景につ き観測報告	英国の対独伊政策の背景に米国の支援があ るとの観測報告	英仏両国の軍事外交上の準備が充実するま では対独衝突は発生しないとの観測報告	
349	348	346	341	341	339	338	337	336	335	333	332	330

四	256	昭和14年 6月6日	三五九	在仏国宮崎臨時代理大使より 有田外務大臣宛(電報)	ヒトラー演説に対する波蘭外交当局の反応 振りについて……………	362
四	255	昭和14年 6月2日	四六三	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	波蘭は対独強硬姿勢を維持できないとのイ ンクバルト独国無任所大臣の観測について ダンチヒ問題に関する波蘭政府対独覚書の 要旨について……………	360
四	254	昭和14年 5月20日	一三一	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	地方長官会議における有田外相の訓示要旨 英ソ交渉の成りゆきに日本が強い関心を有 する旨を英国首相側近者へ注意喚起につい て……………	359
四	253	昭和14年 5月20日	六八	在カナダ富井公使より 有田外務大臣宛(電報)	英ソ接近が日英関係に及ぼす悪影響をカナ ダ首相へ注意喚起について……………	358
四	252	昭和14年 5月19日	一三五	在トルコ武富大使より 有田外務大臣宛(電報)	バルカン諸国の動向に関する観測報告 ……………	356
二	26	昭和14年 5月18日		平沼内閣総理大臣より 米国政府宛……………	欧州平和維持のため日米両国の協力を提唱 した平沼総理の米国政府宛伝言……………	69
四	251	昭和14年 5月17日	五一〇	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	英ソ交渉に日本が強い関心を有する旨を十 分理解したとの英国首相側近者内報につい て……………	355
四	250	昭和14年 5月15日	一二七	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	独波関係改善の斡旋は時宜に適せずと波蘭 外務当局へ回答について……………	354
四	249	昭和14年 5月12日	四九四	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	英ソ交渉の成りゆきに日本が強い関心を有 する旨を英国首相側近者へ注意喚起につい て……………	353
一	1	昭和14年 5月8日			……………	3
四	248	昭和14年 5月6日	一一五	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	……………	352
四	247	昭和14年 5月4日	三一	在ウィーン山路総領事より 有田外務大臣宛(電報)	……………	351
四	246	昭和14年 5月4日	一一一	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	……………	350

四	四	二	四	四	四	四	四	四	四	四	四
267	266	27	265	264	263	262	261	260	259	258	257
昭和 14年 8月13日	昭和 14年 8月11日	昭和 14年 8月8日	昭和 14年 8月4日	昭和 14年 7月15日	昭和 14年 7月5日	昭和 14年 7月1日	昭和 14年 6月30日	昭和 14年 6月21日	昭和 14年 6月19日	昭和 14年 6月14日	昭和 14年 6月11日
九三四	七九四		七七九	一七〇	一五九	五九七	七一九	三八五	五五七	一四九	一五九
在ソ連邦東郷大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	ハル米国国務長官より 平沼内閣総理大臣宛	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在仏国宮崎臨時代理大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報) 有田外務大臣宛(電報)	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	在伊国白鳥大使より 有田外務大臣宛(電報)
ダンチヒ問題から欧州戦争が勃発する可能性を示唆した伊国武官の内話について	ダンチヒ市民の対波抗議大会におけるフォレストー演説要旨について	欧州平和維持に関する平沼総理伝言へのハル国務長官回答	独ソ通商交渉に関する独国外務省通商局長の説明振りについて	ダンチヒ問題などに関するベック内話について	ダンチヒ問題で独国が対波戦争を起こすこととはないと独国外務大臣内話について	英独海軍協定廃棄通告に対する英国回答には誠意が認められないとの独側評価について	欧州情勢に関する全般的観測報告	英ソ提携交渉が難航している事情につき諜報報告	独伊両国が合意した勢力範囲に関する独国外相の説明振りについて	対波関係改善交渉は進展を見ないとの独国外務大臣内話について	独伊友好同盟条約締結時に暗黙了解された両国の勢力範囲に関し伊国外相内話について
375	374	69	373	372	371	370	368	366	366	365	364

四	278	昭和14年8月25日	四九七	在仏国宮崎臨時代理大使より有田外務大臣宛(電報)	戦争回避努力が希薄な仏国の対独伊強硬姿勢について	375
四	269	昭和14年8月20日	八一七	在独国外務大臣宛(電報)	ダンチヒ問題に対する独国動向につき観測報告	376
四	270	昭和14年8月21日	九六六	在ソ連邦東郷大使より有田外務大臣宛(電報)	独ソ通商協定の成立に関する報道振り報告	378
四	271	昭和14年8月21日	八二	在オランダ石射公使より有田外務大臣宛(電報)	欧州情勢緊迫に関する蘭国外交筋の観測報告	378
四	272	昭和14年8月22日	九七一	在英国重光大使より有田外務大臣宛(電報)	波蘭独立擁護のためなら英仏両国は蹶起を躊躇せずとの英国外務省筋の内話報告	380
四	273	昭和14年8月22日	九六八	在ソ連邦東郷大使より有田外務大臣宛(電報)	独波が開戦してもソ連は参戦しない見通しとの諜報報告	381
四	274	昭和14年8月23日	二〇六	在ポーランド酒匂大使より有田外務大臣宛(電報)	欧州情勢緊迫に伴う波蘭政府の動向につき観測報告	381
四	275	昭和14年8月23日	六〇	在ウィーン山路総領事より有田外務大臣宛(電報)	欧州大戦の勃発は避けがたいとの観測報告	383
二	28	昭和14年8月24日	八四六	在独国外務大臣宛(電報)	大規模の戦争が勃発した場合の在留邦人避難措置を決定について	71
二	29	昭和14年8月25日	八四九	在独国外務大臣宛(電報)	在留邦人への引揚げ勧告発出について	72
四	276	昭和14年8月25日	二一五	在ポーランド酒匂大使より有田外務大臣宛(電報)	フォルスターの市長就任に関するダンチヒ当局の発表について	387
四	277	昭和14年8月25日	二一六	在ポーランド酒匂大使より有田外務大臣宛(電報)	フォルスター市長就任に関する波蘭外務省東方部長の内話について	388
四	278	昭和14年8月25日	四九七	在仏国宮崎臨時代理大使より有田外務大臣宛(電報)	独ソ不可侵条約成立により独国が戦争を決意する可能性はなくなったとの推論報告	389

四	四	四	四	四	四	四	四	四	二	一	四	四
289	288	287	286	285	284	283	282	281	30	2	280	279
昭和 14年 9月1日	昭和 14年 9月1日	昭和 14年 8月31日	昭和 14年 8月31日	昭和 14年 8月31日	昭和 14年 8月30日	昭和 14年 8月30日	昭和 14年 8月29日	昭和 14年 8月28日	昭和 14年 8月28日	昭和 14年 8月28日	昭和 14年 8月26日	昭和 14年 8月26日
八九一	一九一	八八九	八八七	八九一	一〇一九	八八三	一〇一六	二二九	一三		六五	一〇〇一
在独国外務大臣宛(電報)	在ベルギー来栖大使より 阿部外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報)	在米国外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在ポーランド酒匂大使より 有田外務大臣宛(電報)	在ロンドン内山総領事より 有田外務大臣宛(電報)		在ウィーン山路総領事より 有田外務大臣宛(電報)	在ソ連邦東郷大使より 有田外務大臣宛(電報)
波蘭への武力発動をヒトラーが全国防軍へ 命令したとの発表について	独国の対波提案は波蘭に拒絶されたとの独 側ラジオ放送について	対波戦争が避けがたい旨を独国外務次官が 内報について	波蘭との直接交渉を断念したとの独国政府 発表について	波蘭の観測報告	独国の対英回答に譲歩なく戦争は避けがた いとの英国外務省筋の内話について	波蘭の挑発的態度に鑑み同国との直接交渉 は望み薄との独国外務次官補の内話につい て	英独間に外交上の最後の駆引き進行中につ いて	波蘭は対独決戦を辞さないとの波蘭外務省 東方部長の内話について	波蘭による空襲を想定し安全地域への避難 準備を在留邦人へ愆愆について	欧亜局作成の「帝國對歐外交基本方針案」	波蘭軍の戦闘能力に関するウィーン軍事消 息筋の観測報告	独ソ不可侵条約成立により欧州戦争の可能 性は増大したとの英武官の内話報告
398	396	396	395	394	393	393	392	391	73	4	390	389

四	290	昭和14年9月1日	八九三	在独国外務大臣宛(電報)	ダンチヒの独領復帰をヒトラー承認について	398
四	291	昭和14年9月1日	八九六	在独国外務大臣宛(電報)	対波開戦に当たつてのヒトラー演説について	398
四	292	昭和14年9月1日	八九七	在独国外務大臣宛(電報)	独軍の波蘭進撃開始に関するラジオ放送について	399
四	293	昭和14年9月1日	二四〇	在ポーランド酒匂大使より 阿部外務大臣宛(電報)	独軍の対波侵攻開始を波蘭外務省東方部長が通報について	400
四	294	昭和14年9月1日	二四二	在ポーランド酒匂大使より 阿部外務大臣宛(電報)	独軍侵攻を受けて対独交戦を決定した旨ベツク説明について	400
四	295	昭和14年9月1日	一三五	在スイス天羽公使より 阿部外務大臣宛(電報)	スイス政府の中立宣言について	400
四	296	昭和14年9月1日	一〇三五	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)	独波戦争の成りゆきにつき観測報告	401
五	371	昭和14年9月1日	六七	阿部外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印重要物資の対日供給保障につき蘭国の了解確認方訓令	491
四	297	昭和14年9月2日	二六九	在伊国白鳥大使より 阿部外務大臣宛(電報)	英仏両国が参戦しても伊国は中立を保持する旨を伊国外務省言明について	401
一	3	昭和14年9月3日			東亜局作成の「對外方針要綱」	5
二	31	昭和14年9月3日	合一五	在独国外務大臣宛(電報)	英国参戦の情報を受け引揚船靖国丸の出帆を進めるよう在スウェーデン栗山公使へ要請について	73

二	33	昭和14年9月4日	一〇四七	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)	北欧から米国經由の帰国には多額の資金を要するため資産乏しき者には地中海方面からの帰国を勧告方意見具申	74
一	5	昭和14年9月4日		付記 昭和十四年九月五日 「歐洲勢ニ對スル帝國政府ノ不介入聲明通告ニ關スル外務省情報部發表」	英仏伊各国の動向に関するスターマー内話について	402
一	4	昭和14年9月4日		閣議決定	独国政府に対し波蘭よりの撤兵を求める最後通牒を發出した旨を英国首相公表について	403
四	304	昭和14年9月3日	九一七	在独国大島大使より 阿部外務大臣宛(電報)	英国の対独開戦宣言について	403
四	303	昭和14年9月3日	九三九	在米国堀内大使より 阿部外務大臣宛(電報)	独国政府が波蘭よりの撤兵に応じない場合は対独参戦するとの仏国の対独通告について	403
四	302	昭和14年9月3日	一〇六	在オランダ石射公使より 阿部外務大臣宛(電報)	オランダ政府の中立宣言について	404
四	301	昭和14年9月3日	五六四	在仏国宮崎臨時代理大使より 阿部外務大臣宛(電報)	中立保持を言明した米国大統領演説について	404
四	300	昭和14年9月3日	一〇三九	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)		403
四	299	昭和14年9月3日	一〇三八	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)		403
四	298	昭和14年9月3日	九〇九	在独国大島大使より 阿部外務大臣宛(電報)		402
二	32	昭和14年9月3日	九六	在スウェーデン栗山公使より 阿部外務大臣宛(電報)		74

二	34	昭和14年9月4日	合一	在ハンブルク川村総領事より 阿部外務大臣他宛(電報)	米国經由の帰国者に対する保証書発給措置につき請訓	75
三	125	昭和14年9月4日	二〇二	在シドニー秋山総領事より 阿部外務大臣宛(電報)	豪州政府が対日輸出管理など徹底した交戦権の適用を行うおそれがある旨観測報告	175
四	305	昭和14年9月4日	一〇四二	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)	英国政府が対独参戦を通報について	405
			付記	昭和十四年九月四日着在英国重光大使より阿部外務大臣宛電報特情倫敦第一一〇号		406
四	306	昭和14年9月4日	九二八	在独国外務大臣宛(電報)	英国の対独参戦に際してのヒトラー演説報告	407
四	307	昭和14年9月4日	五七四	在仏国宮崎臨時代理大使より 阿部外務大臣宛(電報)	参戦直後のバリ市内の状況報告	407
二	35	昭和14年9月5日	二二	在ロンドン内山総領事より 阿部外務大臣宛(電報)	開戦後における在留邦人の動静報告	75
二	36	昭和14年9月5日	二五〇	在ポーランド酒匂大使より 阿部外務大臣宛(電報)	ポーランド政府が要請する指定地への移転を応諾について	76
二	37	昭和14年9月5日	二五四	在ポーランド酒匂大使より 阿部外務大臣宛(電報)	在留邦人へ引揚命令発出について	76
四	308	昭和14年9月5日	一〇七四	在ソ連邦東郷大使より 阿部外務大臣宛(電報)	伊国中立保持に関するギリシャ公使の観測について	408
四	309	昭和14年9月5日	九六五	在米国堀内大使より 阿部外務大臣宛(電報)	米国の中立宣言について	409
四	310	昭和14年9月5日	三二七	在アルゼンチン内山公使より 阿部外務大臣宛(電報)	中南米諸国の中立保持に関するアルゼンチン外相の観測について	409
五	372	昭和14年9月5日	一一三	在オランダ石射公使より 阿部外務大臣宛(電報)	蘭印重要物資の対日供給保障につき蘭国意向を同国外務省へ照会について	492

日付索引

二	38	昭和14年9月7日	一一二	在スウェーデン栗山公使より 阿部外務大臣宛(電報)	北欧から米国經由で帰国する邦人への対処 方針について……………77
二	39	昭和14年9月7日	一〇一七	在米国堀内大使より 阿部外務大臣宛(電報)	北欧より米国經由で帰国する邦人に対する 便宜供与を米国国務省へ要請について……………78
三	126	昭和14年9月7日	一〇一五	在米国堀内大使より 阿部外務大臣宛(電報)	大戦に伴う通商航海関係事項の激変に鑑み わが方船舶が不測事態に陥らぬよう配慮方 関係各館へ注意喚起について……………175
四	311	昭和14年9月7日	一〇六六	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)	波蘭における戦況など情報報告……………410
二	40	昭和14年9月9日	四八九	在満州国植田大使より 阿部外務大臣宛(電報)	在満独国船舶に対する措置につき請訓……………78
二	41	昭和14年9月9日	九五六	在独国大島大使より 阿部外務大臣宛(電報)	日本および満州国に停泊中の独国船舶の処 分につき独側意向探査について……………78
四	312	昭和14年9月9日	九六三	在独国大島大使より 阿部外務大臣宛(電報)	優勢に戦局を進めつつあるとの独国外相の 戦況説明について……………411
四	313	昭和14年9月9日	二九三	在伊国白鳥大使より 阿部外務大臣宛(電報)	和平達成に関する伊国外相の見解について……………412
二	42	昭和14年9月10日	九七三	在独国大島大使より 阿部外務大臣宛(電報)	引揚邦人の伊国經由帰国について……………79
一	6	昭和14年9月11日			条約局第二課作成の「帝國ノ不介入聲明ノ 法律上ノ意義」……………8
四	314	昭和14年9月11日	脱	在スイス天羽公使より 阿部外務大臣宛(電報)	赤松武官の情勢判断報告……………413
四	315	昭和14年9月11日	一一二八	在ソ連邦東郷大使より 阿部外務大臣宛(電報)	西方国境方面でのソ連軍動向につき内査方 関係公館へ要請について……………414
四	316	昭和14年9月11日	二七二	在トルコ武富大使より 阿部外務大臣宛(電報)	欧州戦争に関する中立国外交官の觀察につ いて……………414

四	317	昭和14年9月11日	一一二九	在ソ連邦東郷大使より 阿部外務大臣宛(電報)	ソ連軍動員の目的に関する英国武官の観測 について	416
二	43	昭和14年9月12日	一二八	阿部外務大臣より 千葉台湾総督府外務部長宛(電報)	交戦国所属船舶の取扱方針につき訓令	79
二	44	昭和14年9月12日	一〇七〇	在米国堀内大使より 阿部外務大臣宛(電報)	北欧より米国經由で帰国する邦人に対する 便宜供与を米国国務省応諾について	80
二	45	昭和14年9月14日			欧州向け旅行者への旅券発給制限に関する 外務省発表	81
三	127	昭和14年9月14日		在本邦ドッツ英国臨時代理大使より 阿部外務大臣宛	戦時禁制品取締措置に関する英国政府通報	176
				付記 右和訳文		178
三	128	昭和14年9月14日	九八八	在独国大島大使より 阿部外務大臣宛(電報)	英仏側の措置に対抗した独国政府の戦時禁 制品取締措置について	180
五	373	昭和14年9月14日	一三九	在オランダ石射公使より 阿部外務大臣宛(電報)	蘭印重要物資の対日供給保障に関する蘭国 回答について	493
四	318	昭和14年9月15日	一一六二	在ソ連邦東郷大使より 阿部外務大臣宛(電報)	波蘭制圧後の独軍動向等に関する独大使館 筋からの情報について	416
三	129	昭和14年9月19日	一一六〇	在英国重光大使より 阿部外務大臣宛(電報)	英国の対敵取引禁止法の概要について	180
二	46	昭和14年9月22日	合二三三五	阿部外務大臣より 在広東岡崎総領事、在メダン原田領事 他宛(電報)	日本經由で帰国する独国人の取扱いにつき 訓令	81
三	130	昭和14年9月22日		英国経済戦争省より 在英国重光大使宛	対敵取引禁止法の中立国船舶への適用に関 する英国側回答	182
一	7	昭和14年9月25日			欧州戦対策審議委員会幹事会が作成した 「對外施策方針要綱」	9

日付索引

五	四	一	二	五	一	四	四	四	四
375	323	9	47	374	8	322	321	320	319
昭和 14年 10月 6日	昭和 14年 10月 6日	昭和 14年 10月 4日	昭和 14年 10月 3日	昭和 14年 10月 2日	昭和 14年 10月 2日	昭和 14年 9月 30日	昭和 14年 9月 30日	昭和 14年 9月 28日	昭和 14年 9月 26日
一八二	一一三 一一二			一一七		一〇九 八	一三二 一八	一一九 〇	一一六 九
在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	在独国大島大使より 野村外務大臣宛(電報)			在野村外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)		在独国大島大使より 野村外務大臣宛(電報)	在ソ連邦東郷大使より 野村外務大臣宛(電報)	在米国外務大臣宛(電報)	在米国外務大臣宛(電報)
蘭印保全に関する蘭国意向につき報告	波蘭処理および欧州和平提案に関するヒト ラー演説について	谷外務次官作成の「歐洲戦争二件フ當面ノ 對外施策」	条約局第二課作成の「佛國內ニ樹立セラレ タル波蘭政府ノ地位ニ關スル法理的見解」	付記 昭和十四年八月三十日發在オランダ石射公使より阿部外務大臣宛電報第一 〇〇号 条約による中立保障を蘭国は望まないなど同国外相の記者会見内容につい て	地方長官會議における野村外相の談話要旨	獨ノ境界線などモスクワ交渉の結果に關す る獨側説明振りについて	モスクワでの獨ソ交渉に關する獨国大使説 明について	米国政府が汎米會議を招請した目的につき 觀測報告	パナマでの汎米會議における米国國務次官 の演説要旨について
495	424	17	82	494	15	423	421	418	417
								14	11

五	376	昭和14年10月8日	一九〇	在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	蘭印をめぐる日蘭間の感情融和に関し蘭国外相と意見交換について	496
五	377	昭和14年10月8日	一九一	在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	現状では蘭印保全の条約締結に蘭国が応じる見込みはないとの観測報告	498
一	10	昭和14年10月20日			海軍作成の「歐洲戦争二件」フ當面ノ對外施策」	19
四	324	昭和14年10月20日	一四四九	在ソ連邦七田臨時代理大使より 野村外務大臣宛(電報)	ソ連の對フィンランド要求などに関する情報報告	426
二	48	昭和14年10月24日		在本邦オット独国外使より 野村外務大臣宛	交戦国商船による中立国人の航行に對し独 国警告	84
一	11	昭和14年10月27日		付記 昭和十四年十一月十日付野村外務大臣より 右警告に對するわが方回答	在本邦オット独国外使宛公信	85
四	325	昭和14年11月5日	一三四六	在米國堀内大使より 野村外務大臣宛(電報)	歐洲戰對策審議委員會幹事會が作成し同委員會に諮った「時局下對歐策要綱二關スル件」	22
三	131	昭和14年11月6日	一四四二	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	中立法の修正に伴う米國の諸措置について	427
五	378	昭和14年11月11日	四二六	在バタビヤ齋藤總領事より 野村外務大臣宛(電報)	獨國の輸出貿易を阻止する措置が實施され るとの風聞に對し英國經濟戰爭省へ照會に ついて	183
五	379	昭和14年11月11日	二六〇	在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	蘭印保全問題に關する米國總領事の內話に ついて	500
四	326	昭和14年11月12日	一四八四	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	蘭印保全の條約締結を蘭國へ申入れ方請訓	500
					對獨共同軍事行動に關する英仏側からの提 案を蘭白兩國が拒絶したとの情報について	429

12	昭和14年11月15日	一五四一	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	欧州戰対策審議委員會が作成した「歐洲新情勢ニ對應スル南方政策」	23
380	昭和14年11月16日	一六二	在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印との經濟關係調整および歐洲戰禍の蘭印波及防止に関するわが方意向を蘭國へ申入れ方訓令	502
381	昭和14年11月17日	一六四	野村外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印との經濟關係調整および歐洲戰禍の蘭印波及防止に関するわが方意向を在本邦蘭國公使館員へ説明について	504
382	昭和14年11月17日	二八五	在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	蘭印との經濟關係調整および歐洲戰禍の蘭印波及防止に関する對蘭申入れの再考方訓令	504
49	昭和14年11月21日	一五四一	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	照國丸の沈没を英國が通報について	85
132	昭和14年11月21日	一五四四	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	對独報復として独國原產輸出品の公海における沒收措置を決定したとの英國首相議會答弁について	184
50	昭和14年11月22日	一五五八	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	照國丸沈没につき船長ら關係者の証言報告	85
51	昭和14年11月22日	一五五九	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	照國丸沈没につき船長ら關係者の証言統報	86
52	昭和14年11月22日	一五六四	在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	照國丸沈没は独國の新式機雷による可能性が高い旨報告	87
383	昭和14年11月22日	一七一	野村外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印との經濟關係調整および歐洲戰禍の蘭印波及防止に関する對蘭申入れの迅速実行方訓令	505

五	384	昭和14年11月23日	三〇四	在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	蘭印との経済関係調整および欧州戦禍の蘭 へ申入れについて	506
二	53	昭和14年11月25日 合二七二〇		野村外務大臣より 在英國重光大使、在独国宇佐美臨時代 理大使宛(電報)	照国丸沈没に関し英独両政府へ機雷敷設区 域等の説明要求方訓令	88
三	133	昭和14年11月25日		別電 昭和十四年十一月二十五日発野村外務大臣より在英國重光大使、在独国宇 佐美臨時代理大使宛合第二七一九号 右申入れ案	英國政府の対独通商報復措置に関する情報 部長談話	184
三	134	昭和14年11月27日 一六一三		在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	英國の対独通商報復措置に対するわが方抗 議に英國外相弁明について	185
				付記 昭和十四年十一月二十七日付 右わが方抗議		186
二	54	昭和14年11月28日		在本邦オット独国大使より 野村外務大臣宛	航行危険区域に関する独国通報	89
				付記 昭和十四年十二月二十六日付野村外務大臣より在本邦オット独国大使宛公 信 右通報に対するわが方回答		91
三	135	昭和14年11月29日 特情倫敦 一四五		在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	英國の対独通商報復令について	187
三	136	昭和14年11月29日		在英國重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	対独通商報復令実施に関する英國経済戦争 省の声明について	189
三	137	昭和14年12月1日	B	野村外務大臣より 在英國重光大使宛(電報)	対独通商報復令をめぐる英國大使との会談 内容通報	190
				別電 昭和十四年十二月一日発野村外務大臣より在英國重光大使宛第D号 右会談における英國側申し出		191

五	三	三	四		三	四	三	四	三
385	142	141	329		140	328	139	327	138
昭和 14年 12月 16日	昭和 14年 12月 13日	昭和 14年 12月 10日	昭和 14年 12月 9日		昭和 14年 12月 4日	昭和 14年 12月 2日	昭和 14年 12月 2日	昭和 14年 12月 1日	昭和 14年 12月 1日
一八七	一七二五	一七〇六	二三〇		一六六六	一四七〇	G	一四六二	C
野村外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	在英国重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	在ブラジル桑島大使より 野村外務大臣宛(電報)		在英国重光大使より 野村外務大臣宛(電報)	在米田堀内大使より 野村外務大臣宛(電報)	野村外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	在米田堀内大使より 野村外務大臣宛(電報)	野村外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)
				三 昭和十四年十二月二十一日発在英国重光大使より野村外務大臣宛電報第一 七八一号 右わが方覚書に対する英国回答	付記一 昭和十四年十二月四日付 右わが方覚書				
				二 右和訳文					
蘭印との経済関係調整に関する対蘭交渉方針訓令	山陽丸出港の条件に関する英国経済戦争省との交渉状況報告	コントロール・ベースでの簡易検査を条件として山陽丸のロッテルダム出港を認める旨英国経済戦争省から通報について	欧州戦争に対するブラジルの動向報告		対独通商報復令の適用に当たっては現実的な配慮を望む旨英国外相へ覚書提出について	ソ連のフィンランド侵攻に対し米国政府は国交断絶等の強硬措置はとらないとの観測報告	対独通商報復令に対するわが方希望を英国商務官へ回答について	ソ連のフィンランド侵攻に対する米国政府の対応振り報告	対独通商報復令への対応方針訓令
507	203	202	431	199	195	430	193	430	192

五	388	昭和15年1月17日	九	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印との経済関係調整に関する日蘭取極要 綱につき蘭側意向至急確認方訓令	512
二	56	昭和15年1月7日	七	在独国外務大臣宛(電報)	照国丸沈没事件に関する独国回答について	92
二	55	昭和14年12月31日	五八二	在伊国天羽大使より 野村外務大臣宛(電報)	情報収集のためワルシャワへの人員駐在方 意見具申	91
一	13	昭和14年12月28日	一九七	外務、陸軍、海軍三大臣決定	「對外施策方針要綱」	25
五	387	昭和14年12月27日	三五六	野村外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印との経済関係調整に関する具体的数値 目標など詳細回示方請訓	512
五	386	昭和14年12月18日	三五六	在オランダ石射公使より 野村外務大臣宛(電報)	蘭印との経済関係調整に関する具体的数値 目標など詳細回示方請訓	511
			二	昭和十四年十二月十六日發野村外務大臣より在オランダ石射公使宛第一八 九号 右要綱に関する説明		510
			別電一	昭和十四年十二月十六日發野村外務大臣より在オランダ石射公使宛第一八 八号 右調整に関する日蘭取極要綱		509

昭和十五年

日付索引

一	五	五	三	二	五	二	二	二		三	二	五
14	392	391	144	61	390	60	59	58		143	57	389
昭和 15年 2月5日	昭和 15年 2月3日	昭和 15年 2月2日	昭和 15年 2月2日	昭和 15年 2月(2)日	昭和 15年 2月(1)日	昭和 15年 1月27日	昭和 15年 1月25日	昭和 15年 1月24日		昭和 15年 1月23日	昭和 15年 1月23日	昭和 15年 1月19日
	五五	五五		特情華府八	五〇	一四四	一二五	一〇六		一〇一		三〇
	有田外務大臣宛(電報)	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米國堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)		在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)		在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)
									付記 昭和十五年一月二十二日付 右会談でわが方が提示した覚書			
欧亜局第三課が作成した高裁案「歐洲新情 勢ニ對應スル南方政策案ニ關スル件」	換について	蘭印の石油に関する米國総領事との意見交	独貨積出し問題への対処方針請訓	淺間丸事件をめぐる日英關係の動向に注目 した米國紙論說報告	淺間丸事件に関する英國政府回答の留意点 について	淺間丸事件に関する英國外相との會談内容 の詳細報告	淺間丸事件が日本の対英感情に及ぼす悪影 響を英國外相へ説示について	淺間丸事件が日本の對英感情に及ぼす悪影 響を英國外相へ説示について		獨貨積出し問題に關し現實的な解決を図る べき旨英國外相へ申入れについて	英國軍艦の淺間丸臨檢事件に関する情報部 發表	蘭印保全問題に關する蘭國外相との意見交 換について
30	516	515	208	101	515	100	97	96	206	204	94	513

二	62	昭和15年2月6日	合二四三	有田外務大臣より 在米国堀内大使、在ブラジル桑島大使 他宛(電報)	浅間丸事件に関する有田外相の議会説明 ……	102
二	63	昭和15年2月6日	合二四三	有田外務大臣より 在タイ村井公使、在シンガポール岡本 総領事他宛(電報)	欧州交戦国人の本邦船舶乗船に対する取扱 い方針について	104
二	64	昭和15年2月6日	合二四二	有田外務大臣より 在シンガポール岡本 総領事他宛(電報)	欧州交戦国人の本邦船舶乗船に対する取扱 い方針の運用振り訓令	105
二	65	昭和15年2月(9)日	特情倫敦 一二	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	浅間丸事件の円満解決を評価する英国上院 の質疑内容報告	105
五	393	昭和15年2月12日	合二八三	有田外務大臣より 在英国重光大使他宛(電報)	蘭印およびフィリピンとの不可侵条約締結 問題に関する有田外相の衆議院での答弁通 報	517
三	145	昭和15年2月15日	二三三	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独貨積出し問題に関するわが方主張をまと めた覚書を英国外務省へ提出について	209
三	146	昭和15年2月20日	二六四	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独貨を積載した但馬丸・室蘭丸の出港容認 方英国外相へ申入れについて	211
三	147	昭和15年2月21日	二七四	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	但馬丸・室蘭丸の出港を英国側が条件付で 容認について	213
三	148	昭和15年2月22日	二七九	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	ウラジオストク経由対独輸送の差止めを英 国側要望について	213
五	394	昭和15年2月23日	九七	在バタビア斎藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印からの石油供給確保に関し意見具申	518
五	395	昭和15年2月23日	一〇七	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	日蘭印経済関係調整問題に関する蘭側回答 を同国外相らへ督促について	520

付記 昭和十五年二月十四日付
右わが方覚書

四	330	昭和15年3月8日	二二七	在独国来栖大使より 有田外務大臣宛（電報）	訪独した米国國務次官と独国政府首脳との 会談内容に関する独国外相説明について	……	432
四	331	昭和15年3月18日	四三三	在英国重光大使より 有田外務大臣宛（電報）	米国國務次官の訪英に関連して英国外相が 戦争遂行の決意を記者会見で強調について	……	433
四	332	昭和15年3月18日	四三八	在英国重光大使より 有田外務大臣宛（電報）	米国國務次官とロイド・ジョージ元英 相との会談内容に関する情報報告	……	434
二	66	昭和15年3月19日	合五二五	有田外務大臣より 在英国重光大使他宛（電報）	交戦国官憲による本邦船舶搭載郵便物の押 収・検閲に対する措置振り訓令	……	106
四	333	昭和15年3月19日	二四五	在伊国天羽大使より 有田外務大臣宛（電報）	欧州戦争は長期化するとの観測について	……	435
四	334	昭和15年3月19日	三八五	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛（電報）	米国政府の対ソ態度につき観測報告	……	437
四	335	昭和15年3月20日	二七四	在独国宇佐美臨時代理大使より 有田外務大臣宛（電報）	独伊首脳会談や伊国参戦説に関する独国外 務次官の内話について	……	438
三	336	昭和15年3月23日	二八三	在独国来栖大使より 有田外務大臣宛（電報）	ブレンナーで行われた独伊首脳会談に関す る情報報告	……	439
四	149	昭和15年3月27日	二二四	有田外務大臣より 在英国重光大使宛（電報）	対独通商報復令に対する交渉方針につき訓 令	……	214
四	337	昭和15年3月29日	合五八三	有田外務大臣より 在米国堀内大使他宛（電報）	欧州戦局に関する情報通報	……	440
五	396	昭和15年3月30日	一一三	有田外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛（電報）	蘭印重要物資の買付け状況につき通報	……	521
三	150	昭和15年4月4日	五二二	在英国重光大使より 有田外務大臣宛（電報）	独貨積出し問題に関するわが方新提案を英 国外相へ提示について	……	215
				付記 昭和十五年四月三日付 右わが方提案		……	217

三	171	昭和15年4月5日	五一九	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	全般的な日英通商調整交渉開始方々が方提 議に対し英国側が日英支払協定の政府間交 渉開始を提案について	239
三	172	昭和15年4月6日	五二九	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	日英支払協定案に関する英国大蔵当局の説 明について	240
三	173	昭和15年4月9日	通四機密合 一六〇九	谷外務次官より 阿南陸軍次官他宛	本邦商社の対独取引自制に関する英国側申 入れについて	241
四	338	昭和15年4月9日	三二六	在独国外務大臣宛(電報)	デンマーク内の作戦上重要な地点を占領す るとの独国外務省声明について	441
四	339	昭和15年4月9日	五三八	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍のデンマーク・ノルウェー侵攻状況に ついて	442
四	340	昭和15年4月11日	五五九	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍の戦線拡大に関する英国外務当局の観 測報告	442
五	397	昭和15年4月13日	二〇八	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印保全の声明発出方意見具申	522
五	398	昭和15年4月15日			蘭印の現状変更を来す事態発生には深甚の 関心を有するとの有田外相談話	524
五	399	昭和15年4月15日	一一七	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印問題に関する談話発出の趣旨をパプス ト蘭国公使へ説明について	524
五	400	昭和15年4月15日	一一八	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭本国へ戦禍波及の場合にも蘭印の現状変 更なきよう蘭国政府へ善処要請方訓令	525
三	151	昭和15年4月16日	六〇〇	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独貨積出し問題の迅速解決を英国外務次官 へ申入れについて	218
四	341	昭和15年4月16日	二二五	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍の対蘭侵攻の可能性に関する蘭国外相 の内話について	443
五	401	昭和15年4月16日	二二四	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印の現状変更なきよう蘭国外相へ善処方 要請について	526

日付索引

五	五	六	五	三	五	五	五	三	三
407	406	671	405	175	404	403	402	174	152
昭和 15年 4月 20日	昭和 15年 4月 20日	昭和 15年 4月 19日	昭和 15年 4月 19日	昭和 15年 4月 19日	昭和 15年 4月 [18]日	昭和 15年 4月 18日	昭和 15年 4月 18日	昭和 15年 4月 17日	昭和 15年 4月 17日
六二一	一三四	六四	二三六	六一八	五七五	六一二	五六九	二七五	六〇四
在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	有田外務大臣より 在タイ村井公使宛(電報)	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米田堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米田堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在米田堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)
				付 記 昭和十五年四月十三日發在英国重光大使より有田外務大臣宛電報第五七五号 右協定案					付 記 昭和十五年四月十八日發有田外務大臣より在バタビア斎藤総領事宛電報第一四九号 蘭印問題に関する石射公使の意見転達
蘭印問題に関する英国の対米猜疑について……………	日蘭印経済関係調整問題に関する蘭側回答督促方訓令……………	日タイ間に敵国不援助義務を包含する新条約締結方訓令……………	蘭印問題に関する有田外相談話および米国务務長官声明をめぐる蘭国紙論調報告……………	英国提示の日英支払協定案に関する技術的検討および対処振り具申……………	蘭印問題に関する有田外相談話および米国务務長官声明をめぐる米国紙論調報告……………	蘭印問題に関する有田外相談話の趣旨を英国外務次官へ説明について……………	蘭印問題に関する米国务務長官声明報告……………	満州国との通商関係強化を英国外務次官の使者が内々に打診したとの情報報告……………	日本の対独伊政策に対する英国の猜疑心が独貨積出し問題の交渉にも影響している旨報告……………
532	531	891	530	247	245	529	529	528	244
									219
									527

五	408	昭和15年4月20日	五九三	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印の現状維持に関する米国国務長官との 意見交換について	532
六	672	昭和15年4月 ⁽²³⁾ 日	八五	在タイ村井公使より 有田外務大臣宛(電報)	タイ外相代理へ日タイ間新条約締結方提議 について	892
六	673	昭和15年4月 ⁽²³⁾ 日	八七	在タイ村井公使より 有田外務大臣宛(電報)	日本および英仏両国との新条約締結に関す るタイ政府の意向につき観測報告	893
五	409	昭和15年4月24日	二四二	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	日蘭印経済関係調整問題での回答督促に対 する蘭側の説明振りにについて	534
六	674	昭和15年4月 ⁽²⁴⁾ 日		在タイ村井公使より 有田外務大臣宛(電報)	日タイ間新条約締結に関するわが方希望に できる限り応じる旨をタイ総理回答につい て	894
三	153	昭和15年4月27日	六六六	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	わが方提案を基礎とした独貨積出し問題の 早急解決を英国外務次官へ督促について	220
一	15	昭和15年5月1日			外務省作成の「第二次對外施策方針要綱」	31
五	410	昭和15年5月 ⁽³⁾ 日	合八八六	有田外務大臣より 在南京日高大使館参事官他宛(電報)	蘭印問題をめぐる対米施策に関し堀内大使 の意見具申転報	535
三	154	昭和15年5月8日	七二〇	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独貨積出し問題の解決に向けた覚書を英国 外務次官が提出について	221
三	176	昭和15年5月10日	七三九	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	日英通商全般の改善交渉開始につき英国経 済戦争大臣と意見交換について	248
				付記 昭和十五年五月七日付 右覚書		222
				付記一 昭和十五年五月十日付 右会談で英国側が提示した覚書		249
				二 右和訳文		250

三	177	昭和15年5月10日	七四三	在英國重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	原料物資の対独供給を阻止するため品目を指定した交渉を英國側希望について	250
四	342	昭和15年5月10日	二七三	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	独蘭両国が交戦状態となった旨報告	444
四	343	昭和15年5月10日	七三一	在英國重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍のベネルクス三国への侵攻について	445
四	344	昭和15年5月10日	六九三	在米國堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍の対蘭侵攻に関する米國大統領の談話について	445
四	345	昭和15年5月10日	二九一	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	連合國との連携保持による対独徹底抗戦を高唱した蘭國外相ラジオ演説について	446
三	178	昭和15年5月11日	一〇二	在カナダ富井公使より 有田外務大臣宛(電報)	わが方必需品のカナダからの供給確保は極めて困難な見通しにつき意見具申	251
四	346	昭和15年5月(11)日		在ベルギー栗山大使より 有田外務大臣宛(電報)	ベルギーより英仏両国に発せられた援助要求について	446
四	347	昭和15年5月11日	四四三	在独國来栖大使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍の行動を妨害しないよう要求した独國政府のルクセンブルク政府宛覚書について	447
五	348	昭和15年5月11日	八一	在ウィーン山路総領事より 有田外務大臣宛(電報)	米國の対日警戒および英米の対ソ態度に関する諜報報告	448
五	411	昭和15年5月11日			蘭印現状維持に関する有田外相の關係國への申入れ要領	538
五	412	昭和15年5月11日	一四九	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印問題に関するわが方要請を蘭國政府へ通告方訓令	541

五	413	昭和15年5月11日	一五四	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	対独抗戦のための蘭印資源使用が対日輸出 を阻害しないよう蘭側へ確認方訓令	………	544
五	414	昭和15年5月11日	二五七	在バタビア斎藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印現状維持および蘭印産物資の対日供給 に関するわが方希望を蘭印副総督へ申入れ について	………	544
五	415	昭和15年5月11日	七五三	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印に対する日本の野心を強調した外国勢 力による宣伝活動の背景について	………	546
四	416	昭和15年5月11日	二九八	在オランダ石射公使より 有田外務大臣宛(電報)	蘭国外相急遽訪英の真意につき観測報告	………	546
四	349	昭和15年5月12日	三八五	在伊国天羽大使より 有田外務大臣宛(電報)	伊国参戦問題などに関する同国外相との意 見交換について	………	449
三	155	昭和15年5月13日	三四一	有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	伊国参戦切迫の形勢に鑑み能登丸等三隻の 出航承認を至急取付け方訓令	………	224
四	350	昭和15年5月13日	七七一	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	独軍の蘭白侵攻後の戦局見通しとわが方対 応策につき意見具申	………	451
別電一				昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五〇 号 蘭印に関する日蘭懸案解決方要請		………	542
二				昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五一 号 蘭印産品の対日供給確約方要請		………	542
三				昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五二 号 右物資のわが方年間必要量		………	543
四				昭和十五年五月十一日発有田外務大臣より在オランダ石射公使宛第一五三 号 日蘭印通商関係調整に関する具体案骨子		………	543

五	五	三	三	三	四	五	五	五	五
422	421	180	179	156	351	420	419	418	417
昭和 15年 5月 15日	昭和 15年 5月 15日	昭和 15年 5月 15日	昭和 15年 5月 15日	昭和 15年 5月 15日	昭和 15年 5月 14日	昭和 15年 5月 13日	昭和 15年 5月 13日	昭和 15年 5月 13日	昭和 15年 5月 13日
二八〇	三五七	七九五	七九三	七九〇	三一九	一六八	一六七		二二四
有田外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	有田外務大臣宛(電報) 在オランダ石射公使より 付記 昭和十五年五月二十二日發在独国外務大臣宛電報第五三七号 オランダ軍降服直後のハーグ状況に関する石射公使の報告	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	有田外務大臣より 在米国内務大臣宛(電報)	有田外務大臣より 在米国内務大臣宛(電報)
蘭印現状維持に 影響ある措置または宣言を 実施せぬよう独国政府へ非公式要請方訓令	蘭印現状維持に 関する英国大使との意見交 換について	対独供給阻止に 関する英国提案への対処振 りにつき意見具申	別電 昭和十五年五月十五日發在英国重光大使より 通商制限措置の緩和を要求したわが方覚書	第一回日英通商改善協議においてわが方が 通商制限措置の緩和を要求したところ英国 側は対独供給阻止の保障を要請について	能登丸および野島丸の出航を英国側承諾に ついて	今次対蘭通告は経済関係の互恵的調整以外 に他意なき旨関係方面へ説明方訓令	蘭領西インド諸島への英仏軍上陸に鑑み蘭 印現状維持に 関する蘭側確約取付け方訓令	蘭印現状維持に 関する英国政府回答につい ての情報部長談話	蘭印現状維持に 関する対米提議は時宜に適 さざる旨回訓
549	549	258	254	252	453	548	548	547	547

五	432	昭和15年5月18日	三六六	在バタビア齋藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印現状維持および蘭印産物資対日供給に 関するパプストとの会談内容について	559
五	431	昭和15年5月18日	四九六	在独国外務大臣宛(電報)	蘭印に關し第三国の援助を要請しないよう 蘭国政府から確約取付け方訓令	558
五	430	昭和15年5月16日	八〇八	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	英国の対日通商制限問題などに関する香港 総督との意見交換について	557
五	429	昭和15年5月16日	三六七	在仏国外務大臣宛(電報)	蘭印問題や日英通商改善協議に関する英国 外相との意見交換について	556
五	428	昭和15年5月16日	三三〇	在バタビア齋藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印現狀維持に影響ある措置・宣言を実施 せぬよう独国外務次官へ非公式要請につい て	553
五	427	昭和15年5月16日 合一〇三二		有田外務大臣より 在バタビア齋藤総領事、在英国重光大 使宛(電報)	わが方が必要とする蘭印産物資に關し対日 供給を阻害する措置をとらないよう蘭印經 済長官へ申入れについて	552
五	426	昭和15年5月16日	三六二	有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	蘭印産物資の対日供給を原則として制限し ないとの蘭側回答について	552
五	425	昭和15年5月16日	二〇二	有田外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	石射公使の到着が遅れる場合には在英蘭国 政府当局に対し蘭印問題の通告執行方訓令	551
三	181	昭和15年5月16日	二六八	在広東喜多総領事より 有田外務大臣宛(電報)	蘭印問題に關する對蘭通告を蘭印政府へ通 報し好意的措置をとるよう要請方訓令	258
五	424	昭和15年5月15日	一七三	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印に關し第三国の援助を要請しないよう 蘭国政府から確約取付け方訓令	551
五	423	昭和15年5月15日	一七二	有田外務大臣より 在オランダ石射公使宛(電報)	蘭印現状維持および蘭印産物資対日供給に 関するパプストとの会談内容について	550

別電 昭和十五年五月十八日發在バタビア齋藤総領事より有田外務大臣宛第三六七号
右通告文

五	三	五	二	五	五	五	五	五	二
439	182	438	68	437	436	435	434	433	67
昭和15年5月27日	昭和15年5月24日	昭和15年5月23日	昭和15年5月22日	昭和15年5月21日	昭和15年5月21日	昭和15年5月20日	昭和15年5月20日	昭和15年5月20日	昭和15年5月20日
四〇八	八五二	三九六	五三五	三八七	五二七	五一八	合一〇五七	通六機密 一〇	五一七
在バタビア齋藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	別電 昭和十五年五月二十四日発在英国重光大使より有田外務大臣宛(電報) 英国がわが方に通商制限緩和を要求した品目リスト	在バタビア齋藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報)	在バタビア齋藤総領事より 有田外務大臣宛(電報)	付記 昭和十五年五月二十二日 右回答に関する有田外相・オット独国外務大臣会談要領	在独国外務大臣宛(電報)	有田外務大臣より 在英国重光大使、在バタビア齋藤総領事宛(電報)	有田外務大臣より 在本邦パプストオランダ公使宛	在独国外務大臣宛(電報)
蘭国政府の新通貨制度実施に関し対処振り 請訓		蘭印産物資十三品目の必要供給量訂正と在留邦人への待遇改善を蘭印政府へ申入れについて	在オランダ公使館員等の無事を伝える石射公使の書簡到着について	蘭印の現地情勢に鑑み日本の南進は蘭印原住民の歓迎するところである旨報告	蘭印現状維持に関するわが方非公式要請への独国外務大臣宛(電報)	蘭印問題に関する対蘭申入れを執行した旨の石射公使電報転達	対日供給を確保すべき蘭印産物資十三品目の年間必要量につき蘭印政府からの確約取付け方針通報	蘭印産物資十三品目の対日間輸出量につき確約方要請について	独軍の便宜供与によりオランダから独国方面へ引揚げる旨の在オランダ石射公使の電報転達
567	263	566	108	565	564	563	562	561	107

一	16	昭和15年5月31日	六〇一	在独国外務大臣宛(電報)	別電 昭和十五年五月三十一日發在独国外務大臣宛第六〇二号右続報	欧亜局第三課作成の「歐洲ノ新情勢ニ即應スル南方政策」	35
五	440	昭和15年5月31日	六〇一	在独国外務大臣宛(電報)	蘭印問題わが方申入れへの蘭側回答振りに関する石射公使報告	蘭印問題わが方申入れへの蘭側回答振りに関する石射公使報告	569
五	441	昭和15年5月31日	六〇五	在独国外務大臣宛(電報)	蘭印問題は今後是在京蘭国公使ないしは蘭印政府と交渉すべき旨の石射公使意見具申	蘭印問題は今後是在京蘭国公使ないしは蘭印政府と交渉すべき旨の石射公使意見具申	571
五	442	昭和15年5月31日	六〇八	在独国外務大臣宛(電報)	石射公使が蘭国政府へ手交した蘭印問題に関する口上書について	石射公使が蘭国政府へ手交した蘭印問題に関する口上書について	571
五	443	昭和15年5月31日	六一三	在独国外務大臣宛(電報)	今後の蘭印問題交渉振りなどに関する石射公使の意見具申	今後の蘭印問題交渉振りなどに関する石射公使の意見具申	574
六	675	昭和15年5月31日	一二九	在タイ村井公使より有田外務大臣宛(電報)	欧州戦争に対するタイ政府の意向につき報告	欧州戦争に対するタイ政府の意向につき報告	895
三	183	昭和15年6月4日	九一三	在英国重光大使より有田外務大臣宛(電報)	第三回日英通商改善協議において対独供給阻止の保障や日英貿易改善に関し意見交換について	第三回日英通商改善協議において対独供給阻止の保障や日英貿易改善に関し意見交換について	263
三	184	昭和15年6月4日	九一五	在英国重光大使より有田外務大臣宛(電報)	付記 右協議で英国側が提示した対独供給阻止方法等に関する覚書	英国からの対独輸出自粛要請に対するわが方応答振りについて	266
三	185	昭和15年6月4日	九一六	在英国重光大使より有田外務大臣宛(電報)	日本商社の対独取引抑制に関する英国要請への対応振り請訓	日本商社の対独取引抑制に関する英国要請への対応振り請訓	268
四	352	昭和15年6月4日	一〇五	在ウィーン山路総領事より有田外務大臣宛(電報)	英ソ関係改善に関してソ連が英国に提示した条件につき情報報告	英ソ関係改善に関してソ連が英国に提示した条件につき情報報告	453

日付索引

三	三	二	三		二	二	二	五	三	二	四
189	188	73	187		72	71	70	444	186	69	353
昭和 15年 6月8日	昭和 15年 6月8日	昭和 15年 6月8日	昭和 15年 6月7日		昭和 15年 6月7日	昭和 15年 6月7日	昭和 15年 6月7日	昭和 15年 6月6日	昭和 15年 6月6日	昭和 15年 6月6日	昭和 15年 6月5日
九五六	九四八	六七四	九四二		四四三	三〇八	三〇五		九三五	六五二	九二二
在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国来栖大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)		有田外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	有田外務大臣より 在仏国沢田大使宛(電報)	有田外務大臣より 在仏国沢田大使宛(電報)	在本邦バプストオランダ公使より 有田外務大臣宛	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国来栖大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)
				号 付 記 昭和十五年六月十一日発在英国重光大使より有田外務大臣宛電報第九六九 右了解取付けについて							
対独輸出規制に関する英国要請へのわが方 対処振り請訓	蘭印物資の対独再輸出問題に関する英国側 見解について	オランダ政府の地位に関する独国見解を同 国外務次官説明について	日英支払協定締結の得失につき意見具申		香港・シンガポールにおける独国利益保護 引受けにつき英国側了解取付け方訓令	仏軍当局の軍需物資供給要求に対する対処 振りについて	仏軍当局の軍需物資供給要求に関し同国大 使と会談について	日蘭印経済関係調整問題および蘭印産物資 十三品目の年間対日供給量に関する蘭側回 答	英国大蔵省が日英支払協定の急速締結を要 望について	オランダの被占領地域に関する重要問題は 来栖大使から独国政府へ交渉あるよう独側は 要請について	英仏側は徹底抗戦の決意が固く植民地への 政府移転もあり得べきところわが方対応策 につき意見具申
272	271	112	270	111	111	110	109	575	269	109	454

一	五	五	四	四	三	二	四	三	
17	446	445	356	355	191	78	354	190	
昭和15年6月29日	昭和15年6月28日	昭和15年6月28日	昭和15年6月26日	昭和15年6月25日	昭和15年6月22日	昭和15年6月21日	昭和15年6月18日	昭和15年6月17日	
	通六機密 一九		九七一	七九〇		七六二	三八四	一〇二一	
付記一 九号 昭和十五年七月十三日発有田外務大臣より阿部中国派遣大使宛電報第一四九号 有田ラジオ声明の発出理由について	付記 昭和十五年七月二十六日付在本邦パプストオランダ公使より松岡外務大臣宛公信 右照会に対する蘭側回答	有田外務大臣より 在本邦パプストオランダ公使宛	有田外務大臣宛(電報)	在米国堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣宛(電報)	有田外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	付記 発電日不明、有田外務大臣より在独国外務大臣宛電報案 仏印問題に関する対独申入れ
	有田外相ラジオ声明「國際情勢ト帝國ノ立場」	蘭印産物資十三品目の年間対日供給量に関する蘭側回答の解釈につき照会	日蘭印經濟關係調整問題に関する蘭側回答に対し入国、企業および投資問題の解釈につきわが方見解回示について	欧州情勢の激変に対するわが方施策につき意見具申	バルト三国へのソ連進出に対し独国はわれ関せずの態度である旨報告	第四回日英通商改善協議において対独供給阻止問題に関し意見交換について	ソ連のフィンランドおよびバルト三国への地歩強化政策に対する独国意向査報方訓令	対独輸出規制に應じない場合には英領からの原料品輸入に影響が及ぶおそれがある旨意見具申	
39	37	586	582	457	456	273	456	273	120

三	157	昭和15年7月1日	二 昭和十五年七月十五日付、作成局課不明 有田ラジオ声明の發出経緯		39
			在英国重光大使より ハリファックス英国外務大臣宛		225
			付記 昭和十五年八月二十二日付 右覚書への英国外務省回答		226
四	357	昭和15年7月1日	一〇〇九 在米田堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)		459
			在シドニー秋山総領事より 有田外務大臣宛(電報)	ハバナでの汎米会議において米国が提議すると報じられた議案内容について	
八	802	昭和15年7月1日	二六六 有田外相ラジオ声明に関する豪州の反響報告		1105
			在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)	有田外相ラジオ声明に関する英国の反響報告	
八	803	昭和15年7月1日	一一三六 有田外相ラジオ声明に関する米国の反響報告		1106
			在米田堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)		1106
二	79	昭和15年7月2日	八一三 有田外相ラジオ声明中の「南洋」の用語につき誤解解消方意見具申		122
			在独国外務大臣宛(電報)	独国外務省から占領国に駐在するわが国外交代表の引揚げ方要求について	
八	805	昭和15年7月2日	一一四〇 有田外相ラジオ声明への米国國務省の対応振りについて		1108
			在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)		1108
			在米田堀内大使より 有田外務大臣宛(電報)	わが国外交代表の占領国引揚げに関する独国要求への対処振り具申	
二	80	昭和15年7月3日	八二四 有田外相ラジオ声明の趣旨を説明し対中和平実現のために援蔣政策放棄を説示について		122
			在独国外務大臣宛(電報)		122
八	807	昭和15年7月3日	一一五四 有田外相ラジオ声明の趣旨を説明し対中和平実現のために援蔣政策放棄を説示について		1109
			在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)		1109
八	808	昭和15年7月4日	一一六四 有田外相ラジオ声明の趣旨を説明し対中和平実現のために援蔣政策放棄を説示について		1110
			在英国重光大使より 有田外務大臣宛(電報)		1110

四	四	四	五	一	一	一	五	四	二	五	四
363	361	360	449	20	19	18	448	359	81	447	358
昭和15年8月	昭和15年7月31日	昭和15年7月30日	昭和15年7月29日	昭和15年7月27日	昭和15年7月27日	昭和15年7月26日	昭和15年7月17日	昭和15年7月17日	昭和15年7月14日	昭和15年7月12日	昭和15年7月11日
	一一五	一一一	三三三				三一九	二一八	九〇〇		八五
	在キューバ南条臨時代理公使より 松岡外務大臣宛(電報)	在キューバ南条臨時代理公使より 松岡外務大臣宛(電報)	在バタビア齋藤総領事宛(電報) 松岡外務大臣より				有田外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	在ラトビア大鷹公使より 有田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣より 有田外務大臣宛(電報)	付記 昭和十五年七月八日起草、有田外務大臣より在米国堀内大使宛電報案 ハバナ会議における米国の対中南米工作妨害方訓令	有田外務大臣より 在ブラジル工藤臨時代理大使宛(電報) ハバナ会議に対するわが方工作につき訓令
在仏国小長谷大使館書記官が作成したバリ 立ち退き前後に関する報告書	米州諸国相互援助ならびに共同防衛に関する ハバナ宣言について	ハバナ会議で成立した米州所在欧州交戦国 属領処分問題に関する協約内容等について	蘭印における石油採掘権獲得等のため実業 家派遣について	「帝國外交方針案」	欧州戦対策審議委員会幹事会が作成した 「帝國外交方針案」	拓務省作成の「南方対策」	通商局第一課作成の「對外經濟政策大綱」	日蘭印間の重要懸案を協議するため蘭印へ 特派大使を派遣する旨バプストへ申入れに ついて	ソ連のバルト三国進出と独ソ関係悪化に関 する観測報告	有田外相閣議説明資料「蘭印ニ對スル貿易 企業・入國問題ニ關スル件」	有田外務大臣より在米国堀内大使宛電報案
467	465	464	594	47	42	41	593	461	123	590	460

一	21	昭和15年8月1日	付記一 右英訳文	「大東亜共栄圏」の確立を提唱した松岡外相談話	53
五	450	昭和15年8月2日	七九 在メナド野々村領事より 松岡外務大臣宛(電報)	英米の支援を期待する蘭印に対し示威だけの交渉では成果は見込めず事務的に粘り強く交渉すべき旨大橋前満州国参議の意見具申	594
八	809	昭和15年8月5日	一三五六 在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	欧州戦争や日本の対外政策をめぐる関係諸国との外交関係につき意見具申	1111
四	362	昭和15年8月8日	一二六七 在米岡堀内大使より 松岡外務大臣宛(電報)	ハバナ会議の成果に関する観測報告	465
五	451	昭和15年8月10日	西欧亜局長 在本邦パプストオランダ公使——会談 付記一 昭和十五年八月五日付、小磯前拓務大臣作成 「協議意見第一」	蘭印問題に関する小磯新聞談話などにつき パプストと意見交換について	595
二	82	昭和15年8月12日	二 昭和十五年八月十三日付、小磯前拓務大臣作成 「協議意見第二」	……	601
			三 昭和十五年(月日不明)、小磯前拓務大臣作成 「東亞經濟圏ノ建設ト外交施策」	……	602
			四 昭和十五年(月日不明)、田中拓務次官作成 田中拓務次官意見書	……	605
			在ソ連邦東郷大使より 松岡外務大臣宛(電報)	ソ連がバルト三国併合を通報しわが方公使館の廃止を要求について	124

三	192	昭和15年8月27日	一四六一	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	英国側提示の日英支払協定案	276
二	87	昭和15年8月22日	一一七〇	在ソ連邦東郷大使より 松岡外務大臣宛(電報)	バルト三国公使館廃止問題への対処振り具 申	128
三	161	昭和15年8月21日	一四二九	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	長良丸出帆に対し英国側が原則同意について	230
二	86	昭和15年8月21日	一一五九	在ソ連邦東郷大使より 松岡外務大臣宛(電報)	バルト三国公使館廃止問題に関するソ連の 対日回答について	127
二	85	昭和15年8月17日		付記 昭和十五年八月二十日付松岡外務大臣より在本邦オット独国外務大臣宛公信条 右普通第九九号 右警告に対するわが方回答		127
三	160	昭和15年8月15日	一四〇六	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	英国周辺海域での航行の危険に関する独国外務大臣宛公信条	126
二	84	昭和15年8月15日	一〇五八	在独国外務大臣より 松岡外務大臣宛(電報)	長良丸を最終船とする英国側意向は固く将来の積出し許可取付けは困難の旨報告	229
二	83	昭和15年8月15日	一一三五	在ソ連邦東郷大使より 松岡外務大臣宛(電報)	占領地域在勤外交官の引揚げを独国外務要請について	125
三	159	昭和15年8月14日	六六〇	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	長良丸出帆の交渉に当たっては滞貨積出しの余地を将来に残すよう応酬方訓令	228
三	158	昭和15年8月13日	一三九六	別電 昭和十五年八月十二日發在英国重光大使より松岡外務大臣宛第一三九一号 右英国経済戦争省の通報	長良丸を独伊産品積出しの最終船とする条件で同船出帆を許可する旨の英国経済戦争省の通報に対し措置方請訓	227

五	452	昭和15年8月27日	三七九	松岡外務大臣より 在バタビア斎藤総領事宛(電報)	松岡外相が閣議で説明した「對蘭印交渉方針案」および「對蘭印要求案」	605
五	453	昭和15年8月27日	付記	昭和十五年八月二十七日 蘭印特派使節に関する外務省発表	小林商工大臣を特使として蘭印へ派遣する 旨バプストへ通報について	613
二	88	昭和15年8月29日	一一三〇	在独国外務大使より 松岡外務大臣宛(電報)	ケーニヒスベルクへの総領事館設置につき 意見具申	129
五	454	昭和15年8月29日	三八二	松岡外務大臣より 在バタビア斎藤総領事宛(電報)	日蘭会商の蘭側代表者や協議題目に関する わが方意向をバプストへ提議について	615
二	89	昭和15年8月31日	西欧軍局長 代理公使	ノルウェー新任公使の赴任は暫く見合わせ るよう同国代理公使へ非公式に要請について		129
二	90	昭和15年9月3日	付記	昭和十五年八月二十六日、欧亜局第二課作成 「諾威國新公使接受ニ關スル件」		131
五	455	昭和15年9月3日	三九五	大橋外務次官 在本邦スメターニンソ連邦大使	バルト三国公使館廃止問題などに関するソ 連大使との意見交換	132
五	456	昭和15年9月6日	四〇二	松岡外務大臣より 在バタビア斎藤総領事宛(電報)	日蘭会商に関する新聞雜誌記事掲載の禁止 について	616
五	457	昭和15年9月7日	四〇九	松岡外務大臣より 在バタビア斎藤総領事宛(電報)	日蘭会商の蘭側代表者や協議題目に関する 蘭側回答について	617
五	458	昭和15年9月7日	四一〇	松岡外務大臣より 在バタビア斎藤総領事宛(電報)	小林特使の交渉権限について	618
六	678	昭和15年9月11日	大橋外務次官 在本邦アンリ仏国大使	「会谈」	蘭印政府が日蘭会商首席代表に経済長官を 任命したことに強く抗議について	618
					仏印に対するタイの失地回復要求を抑制方 アンリ大使がわが方へ要請について	899

日付索引

三	三	三	三	五	五	五	五	五	五	五	六
165	164	163	162	465	464	463	462	461	460	459	679
昭和 15年 9月 27日	昭和 15年 9月 26日	昭和 15年 9月 24日	昭和 15年 9月 23日	昭和 15年 9月 20日	昭和 15年 9月 19日	昭和 15年 9月 18日	昭和 15年 9月 16日	昭和 15年 9月 13日	昭和 15年 9月 13日	昭和 15年 9月 13日	昭和 15年 9月 12日
一六二六	七七六	七七〇	一六一	会商二四	六	会商二一	会商一六	会商九	会商六	会商一	
在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	在コロンボ柴田領事より 松岡外務大臣宛(電報)	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 小林日蘭会商代表宛(電報)	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	大橋外務次官 在本邦アンリ仏国大使 ——会談
長良丸の水銀抑留問題につき英外務当局が 妥協案提示について	長良丸積載水銀は本邦必需品につきコロン ボでの荷揚げには絶対応じないよう交渉方 訓令	水銀積載のまま長良丸のコロンボ出帆を認 めるよう英国側と交渉方訓令	長良丸の積荷に許可されざる水銀があると して右を抑留する旨コロンボ税関通報につ いて	日蘭会商進捗のため斎藤総領事をしてホー フストラーテン蘭印経済省通商局長と内密 意見交換について	蘭印石油買付け交渉はバタビアで向井をし て担当方請訓	蘭印石油買付け交渉はバタビアで向井をし て担当方請訓	対日石油供給量に関する交渉内容報告	日蘭会商に対する蘭印総督の熱意なき態度 について	日蘭会商での蘭側首席代表問題につき妥協 方請訓	小林代表と蘭印総督との会談内容報告	仏印に対するタイの失地回復要求はわが方 と何ら関係なき旨アンリ大使へ回答につい て
232	232	231	231	625	624	623	622	621	621	619	899

五	466	昭和15年9月27日	会商三三	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商の見通しにつき所感報告	628
一	22	昭和15年9月28日			外務省作成の「帝國外交方針要綱」	57
五	467	昭和15年9月28日	会商三四	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	石油問題急速解決に関するわが方覚書提出 と蘭側回答について	629
				別電一 昭和十五年九月二十八日発小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第三五号		631
				右わが方覚書		631
				二 昭和十五年九月三十日発小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第三六号		631
五	468	昭和15年9月30日	四五九	松岡外務大臣より 在バタビア斎藤総領事宛(電報)	日蘭会商の交渉内容が英米側に筒抜けとな っている旨通報	632
五	469	昭和15年9月30日	会商三九	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	三国同盟成立に当たり日蘭会商は石油問題 解決を急ぎその他の問題は時機が至るまで 交渉継続方意見具申	633
五	470	昭和15年10月1日	会商四一	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	非公式会談において蘭側が三国同盟条約第 二条の東亜における日本の指導的地位に関 し解釈照会について	633
三	166	昭和15年10月5日	一六六五	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	長良丸を荷積みそのまま至急出帆させるよう 英国経済戦争省へ申入れについて	234
七	712	昭和15年10月5日			仏印との通商交渉のための特派使節派遣に 関する情報部長談話	953
				付記 昭和十五年十月九日、松岡外務大臣閣議説明資料 「佛領印度支那トノ通商交渉ニ關スル件」		953
八	810	昭和15年10月5日			南洋を含む「大東亜」におけるわが方の新 秩序建設の意図を説明した対米覚書	1113

五	474	昭和15年10月17日	会商七八	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	三国同盟成立による蘭印の反日風潮激化や 対日石油供給量に関し蘭側と意見交換につ いて	639
五	473	昭和15年10月14日	会商六七	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭印に対するわが方基本外交方針樹立につ き小林代表より意見具申	637
五	472	昭和15年10月12日	会商六一	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	三国同盟は日蘭印関係に影響を及ぼさない 旨および日本は石油問題の優先解決を望む 旨のわが方覚書を蘭側へ提出について	635
五	471	昭和15年10月10日	会商五七	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭印の石油事情に関する説明書を蘭側代表 部提出について	634
三	167	昭和15年10月9日	一六八一	別電 昭和十五年十月九日発在英国重光大使より 松岡外務次官私信要旨	長良丸は追加積載の水銀を降ろせば出帆を 許可する旨英国外務次官が私信送付につい て	235 234
				付記 昭和十五年十月十一日発小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛電報会商第 六三号 石油問題の先行解決には応じられないとの蘭側回答について		636
				別電 昭和十五年十月十二日発小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第六二 号 右わが方覚書		636
				付記 昭和十五年十月十二日発小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛電報会商第 六九号 右意見の閣議上程を使節団要望について		637
				別電 昭和十五年十月十二日発小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第六八 号 右小林代表の意見		637

五	481	昭和15年10月22日	会商九〇	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭側代表部提出の石油事情に関する説明書 ………	649
五	480	昭和15年10月22日	会商八八	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日本側代表部は石油問題の交渉状況に満足 していない旨蘭側へ表明について ………	648
五	479	昭和15年10月21日	会商八七	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	小林代表帰朝に際しての蘭側との会談につ いて ………	648
五	478	昭和15年10月21日			小林代表帰朝に関する情報部長談話 ………	647
五	477	昭和15年10月19日	会商八三	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭印石油買付け交渉の進捗状況について ………	647
一	23	昭和15年10月19日	閣議決定		「第二次歐洲大戰ニ於ケル交戦國竝ニ中立 國中主要國ノ戰時對策研究ニ關スル件」 ………	59
五	476	昭和15年10月18日	会商八一	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商両代表部が発出した共同コミュニ ケの蘭印紙における反響について ………	646
				二 昭和十五年十月十六日發小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛電報会商第 七六号 右コミュニケ	………	645
				付記一 昭和十五年十月十六日發小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛電報会商第 七五号 日蘭両代表部が共同コミュニケ發出について	………	645
				別 電 昭和十五年十月十八日發小林日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第八〇 号 日蘭印經濟關係調整の意義に関する小林代表の説明	………	644
五	475	昭和15年10月18日	会商七九	小林日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日本との經濟關係調整は漸進的に行い政治 的背景は反映させないとの蘭側回答につい て ………	643

五	488	昭和15年10月29日	会商一一〇	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	昭和十五年十月二十九日發在バタビア齋藤総領事より松岡外務大臣宛会商 第一一一号 右協定の要綱	659
五	487	昭和15年10月28日	会商一〇八	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	昭和十五年十月二十九日發在バタビア齋藤総領事より松岡外務大臣宛会商 第一〇九号 右悪化の一因と目される小林代表の發言	657
五	486	昭和15年10月26日	会商一〇二	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭側代表部の対日態度が漸次悪化傾向にある原因について	657
五	485	昭和15年10月25日	会商一〇一	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	航空用ガソリンの対日供給契約締結の余地はないなど蘭側の誠意なき回答振りについて	655
五	484	昭和15年10月25日		閣議決定	石油問題の交渉状況に関する英米報道振りにつきホーフストラーテンと意見交換について	654
七	713	昭和15年10月24日		松宮弘領印度支那派遣大使より 松岡外務大臣宛(電報)	「對蘭印經濟發展ノ爲ノ施策」	652
五	483	昭和15年10月24日	会商九五	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	通商問題に関する仏印総督との会谈内容報告	959
五	482	昭和15年10月23日	会商九四	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	小林代表の後任者選定につき意見具申	651
五	482	昭和15年10月23日	会商九四	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	米貨經由を廢し円対ギルダ一の直接決濟考究方意見具申	651
				別電 昭和十五年十月二十二日發在バタビア齋藤総領事より松岡外務大臣宛会商 第九一号 右わが方回答		650

五	489	昭和15年10月29日	会商一二二	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商に関する蘭印参議会から政府への 質問事項について	660
五	490	昭和15年10月29日	会商一一三	付記 昭和十五年十一月五日発在バタビア齋藤総領事より松岡外務大臣宛電報会 右に関する蘭印政府の説明	蘭印石油対日売買に関する石油会社の最終 提示条件について	662
五	491	昭和15年10月29日	会商一一四	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭印石油対日売買に関する最終条件は受諾 のほかに至急契約締結方請訓	664
二	91	昭和15年11月2日	一四〇九	在独国外来栖大使より 松岡外務大臣宛(電報)	ケーニヒスベルクへの総領事館設置を至急 実現方意見具申	136
五	492	昭和15年11月4日	会商四八	松岡外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	日蘭印支払協定案につき訓令	664
八	811	昭和15年11月4日	会商四七	松岡外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	香港やシンガポールなどにおける英米によ る対日経済圧迫の実例通報	1114
三	168	昭和15年11月5日		大橋外務次官 在本邦クレギー英国大使——会談	長良丸積載の水銀留置問題に関し円満解決 を大橋外務次官が要請について	235
六	680	昭和15年11月5日			対タイ施策に関する四相会議決定の要旨	900
五	493	昭和15年11月6日	会商一三三	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	対日為替措置や錫の対日売却制限問題に関 するホーフストラーテンとの会談内容報告	665
五	494	昭和15年11月6日	会商一三四	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭印支払協定案のわが方提議に対しジャ ワ銀行総裁は蘭印政府へ正式提案あるよう 回答について	667
一	24	昭和15年11月13日	会商一三九	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭印支払協定交渉の開始や蘭印石油対日 供給量などに関する蘭側との会談内容報告	667
					南洋局新設に関する外務省発表	62

三	169	昭和15年11月22日	九一一	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	追加積載分の水銀陸揚げに応じ長良丸の迅速出帆を図るべき旨訓令	237
六	682	昭和15年11月21日		四相會議決定		902
五	499	昭和15年11月21日	会商一七八	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	「泰國ノ失地恢復斡旋ニ關聯スル對泰竝ニ對佛印施策ノ件」	670
五	498	昭和15年11月21日	会商六六	松岡外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	新代表を近日中に任命し同代表のバタビア到着後に一般提案を提出する旨パプストへ口上書手交について	670
五	497	昭和15年11月16日	会商六〇	松岡外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	日蘭会商における石油問題以外の一一般提案を至急提出方パプストより口上書手交について	670
三	194	昭和15年11月16日	一八三一	別電 昭和十五年十一月十六日発在英国重光大使より松岡外務大臣宛第一八三二号 右修正案に関する英国覚書		285
六	681	昭和15年11月14日	二九九	付記 昭和十五年十一月二十二日、作成局課不明 「英米「タイ」軍事密約説ニ關スル件」		901
三	193	昭和15年11月14日	三五五	在コルカタ景山総領事代理より 松岡外務大臣宛(電報)	英国大蔵省が日英支払協定修正案を提示し一か月以内の妥結を要請について	284
五	496	昭和15年11月13日	会商一五二	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	付記 右契約内容	669
					蘭印石油の売買契約成立について	669
					インドにおける極東向け特産品輸出阻止の状況報告	283
					タイにおいて親英米傾向が深まりつつあるとの情報について	900
						669

五	506	昭和15年12月3日	会商七八	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	会商一時中止の発表はわが方世論に悪影響 あるためパプストへ蘭側の自重要請について	676
五	505	昭和15年11月30日	会商一九七	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	芳沢代表到着までの会商中止を発表したき 旨蘭側提議について	676
七	714	昭和15年11月28日		付記 昭和十六年六月、仏印交渉事務室作成「日佛印經濟交渉要録」より抜粋 東京交渉における日本側の希望大綱提議とコメ問題の交渉経緯	961	
				付記 昭和十五年十一月三十日付松岡外務大臣より在本邦パプストオランダ公使 宛公信南一普通第三八号 伊藤石油業者代表への便宜供与方要請	675	
五	504	昭和15年11月28日	会商七一	松岡外務大臣より 在バタビア齋藤総領事宛(電報)	仏印との通商交渉を東京に移して再開する 旨の外務当局談	675
三	170	昭和15年11月26日	一八六八	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	追加積載分の水銀陸揚げをもつて長良丸出 帆に同意する旨英国側回答について	238
五	503	昭和15年11月25日	会商一八五	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	向井石油業者代表の帰朝について	674
五	502	昭和15年11月24日	会商一八三	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商の一時中止を蘭側提議について	673
五	501	昭和15年11月22日	会商一八二	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	横浜正金銀行・ジャワ銀行間で日蘭印支払 協定の交渉開始について	672
				別電 昭和十五年十一月二十二日発在バタビア齋藤総領事より松岡外務大臣宛会 商第一八〇号 右一般提案の前文案	671	
五	500	昭和15年11月22日	会商一七九	在バタビア齋藤総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商における石油問題以外の一般提案 の提出時期につき意見具申	671

五	517	昭和16年1月23日	七一	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	「大東亜共栄圏」に関する松岡外相議会演説への蘭印各紙の論調報告	692
八	816	昭和16年1月22日	一一	在カナダ吉沢公使より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外相議会演説に関する報道振り報告	1123
八	815	昭和16年1月22日	合一三三	松岡外務大臣より 在英国重光大使他宛(電報)	在米日本資金の凍結切迫に鑑み公館関係の在米預金を至急引出し方訓令	1123
六	687	昭和16年1月19日		大本営政府連絡懇談会決定	「泰佛印紛争調停ニ關スル緊急處理要綱」	907
六	686	昭和16年1月18日	二四	在タイ二見公使より 松岡外務大臣宛(電報)	タイ・仏印国境紛争調停に関する具体案回示方請訓	906
六	685	昭和16年1月18日	二二	在タイ二見公使より 松岡外務大臣宛(電報)	英米との借款問題に関するタイ首相の説明振り報告	905
五	516	昭和16年1月18日	会商二六	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭側の対日意識啓発のため石沢総領事がホーフストラーテンと懇談について	691
六	684	昭和16年1月17日	二一	在タイ二見公使より 松岡外務大臣宛(電報)	仏印との国境紛争に關シタイ首相がわが方の援助を要望について	904
				付記 昭和十六年一月十六日 右わが方提案和訳文		688
五	515	昭和16年1月17日	会商二五	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	わが方提案を蘭側へ手交について	685
五	514	昭和16年1月16日	会商二二	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商の交渉順序につき合意成立について	684
二	92	昭和16年1月11日	一二	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	バミューダ島における英国官憲の邦人所有外貨没収事件に關する対英抗議について	136
五	513	昭和16年1月8日	二八	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭印の親英米・反独風潮について	684

五	五	五	六	五	六	五	八	八
522	521	520	689	519	688	518	818	817
昭和16年1月28日	昭和16年1月28日	昭和16年1月26日	昭和16年1月25日	昭和16年1月25日	昭和16年1月24日	昭和16年1月24日	昭和16年1月23日	昭和16年1月23日
会商三九	会商二四	会商三六		会商三二		七二	特情華府 一五五	四〇
芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	別電 昭和十六年一月二十六日発芳沢日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第三三号 右演説が会商に悪影響を与えないよう日本側が発表を提議した芳沢代表ステートメント案	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	付記 南洋局第二課作成「タイ」、佛印國境紛争調停會議調書(作成日不明)より抜粋 仏国に対する右提議仮訳	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	在米國野村大使より 松岡外務大臣宛(電報)	在シドニー秋山総領事より 松岡外務大臣宛(電報)
芳沢代表ステートメントの発出中止について……………696	芳沢代表のステートメント発出に当たっては「大東亜共栄圏」へのわが方指導権を否定する言辞なきよう訓令……………696	松岡外相議會演説をめぐる石沢総領事とホーフストラーテンとの意見交換について……………695	「大東亜共栄圏内ノ紛争ニ第三國ノ容喙ハ無用」との松岡外相議會答弁……………909	松岡外相議會演説の反響に鑑みわが方提案への回答提出を延期するとの蘭側通報について……………693	タイ・仏印國境紛争へのわが国の調停提議に関する情報局発表……………908	松岡外相議會演説に関し蘭印經濟長官が談話発表について……………693	対日刺激を憂慮し当分の間は独伊両國のみに資金凍結法を適用するとの米國國務省見解について……………1125	松岡外相議會演説に関する報道振り報告……………1124

五	525	昭和16年2月3日	会商四七	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	付記 昭和十六年二月三日 右蘭側回答	699
五	524	昭和16年1月31日	六〇	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	別電 昭和十六年一月三十一日発松岡外務大臣より在バタビア石沢総領事宛第六 一 号 右口上書	698
六	691	昭和16年1月30日		大本営政府連絡懇談会決定	付記一 昭和十六年一月三十日 「對佛印泰施策要綱二關スル覺」	912
八	820	昭和16年1月29日	六二	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	「對佛印、泰施策要綱」	1127
八	819	昭和16年1月29日		松岡外相議會答弁要旨「我が大東亞指導ハ 八紘一宇ノ大精神」	松岡外相の議會演説および答弁は英國政府 を極度に刺激したとの観測報告	1125
六	690	昭和16年1月29日		南洋局第二課作成「タイ」、佛印國境紛争調停會議調書」(作成日不明)より 右停戦成立の経緯	「大東亜共栄圏」における日本の指導権を 説明した松岡外相議會答弁について タイ・仏印國境紛争の停戦斡旋のため代表 派遣に関する情報局発表	911
五	523	昭和16年1月29日	五二	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	わが方提案への回答を蘭側提出について	697

三	195	昭和16年2月8日	八二	在英 松岡外務大臣宛(電報)	付記 昭和十六年一月二十九日付 右英側覚書和訳文	287
六	693	昭和16年2月7日				286
六	692	昭和16年2月6日		大本営政府連絡懇談会決定	「タイ」佛印國境紛争調停要領	914
五	529	昭和16年2月6日	会商五四	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商促進のため在ロンドン蘭国政府の 法的地位を日本が認めている旨を何らかの 形式で蘭側に表明すべき意見具申	704
二	93	昭和16年2月6日	九四	別電 昭和十六年二月六日発松岡外務大臣より在独国来栖大使宛第九五号 右覚書要旨		138
五	528	昭和16年2月5日	会商五三	松岡外務大臣より 在独国来栖大使宛(電報)	南方產品の対独供給に関し独国へわが方覚 書提出について	137
五	527	昭和16年2月4日	会商七三	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	大橋外務次官および石井情報局第三部長の 発言は誤報である旨をホーフストラーテン へ説明について	703
八	822	昭和16年2月3日	七一	在英 松岡外務大臣宛(電報)	タイ・仏印國境紛争への日本の調停は代償 に軍事基地を要求するものとの新聞論調報 告	1127
八	821	昭和16年2月3日	六三	在シドニー秋山総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外相の「大東亜共栄圏」構想に関する 発言などの反響報告	1127
五	526	昭和16年2月3日	会商五一	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	大橋外務次官が蘭国政府を否認したとの同 盟報道に関し真相回示方請訓	702

五	530	昭和16年2月8日	会商二七	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	大橋外務次官がバプストに対しその地位を 明確に認め日蘭会商促進を要請について……705
五	531	昭和16年2月8日	一二六	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭印政府が輸出許可制の実施に当たり錫な ど十品目の対日輸出許可量を通報について……706
八	823	昭和16年2月8日	七八	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	クレギー報告に基づく極東英領の危機説 に関する英国外相の憂慮表明について……1128
五	532	昭和16年2月11日	九三	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	蘭印政府通告の対日輸出許可量は不十分に つき増量交渉方訓令……707
八	824	昭和16年2月11日	九三	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	日本参戦の可能性に関する新聞報道振り報 告……1131
四	364	昭和16年2月12日	九六	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	英国は戦意旺盛であり戦局は予断を許さぬ 旨意見具申……478
五	533	昭和16年2月12日	会商六三	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	新聞の誤報に拘泥せず会商の促進を図るよ うホーフストラーテン説得について……707
六	694	昭和16年2月12日			タイ・仏印国境紛争の停戦期間延長に関す る情報局発表……918
八	825	昭和16年2月12日	九五	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	日本の参戦気配に関する各紙報道振り報告……1132
五	534	昭和16年2月13日	会商六五	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	実力行使の覚悟なく「大東亜共栄圏」の確 立を叫んでも蘭印問題の打開には効果なき 旨意見具申……708
八	826	昭和16年2月13日	四六	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	極東危機説に関する英国外相申入れに対し 松岡外相覚書を手交方訓令……1133
八	827	昭和16年2月14日	一〇〇	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	日本がドイツと連携して軍事行動を起こす との報道振り報告……1134

六	五	八	二	八	八	八	五	八
695	536	832	94	831	830	829	535	828
昭和 16年 2月 17日	昭和 16年 2月 17日	昭和 16年 2月 16日	昭和 16年 2月 16日	昭和 16年 2月 15日	昭和 16年 2月 15日	昭和 16年 2月 15日	昭和 16年 2月 15日	昭和 16年 2月 14日
	会商七三	七五	四一	一〇五	一〇四	合三一 一	会商六九	一〇一
	別電	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	別電	在サンダカン谷口領事より 松岡外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	在英国重光大使、在独国来栖大使他宛 (電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)
右説明案	昭和十六年二月十七日發芳沢日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第七四号	錫・ゴムなど五品目の対日輸出増量要求に 関する具体的説明案につき請訓	右税関通知	タワウを含む北ボルネオ諸港を閉鎖すると の税関通知について	英国の対日強硬態度に対し冷静対応方意見 具申	英国の対日不信に関する英国外務次官の談 話情報報告	日蘭会商の細目協議開始に蘭側同意につい て	世論喚起に躍起となる英国の外交目的はタ イ・仏印国境紛争調停会議を不成功に導く ことにあるとの観測報告
タイ・仏印国境紛争に関するわが方調停案………	………	………	………	………	………	………	………	………
918	711	710	139	138	1136	1136	709	1134

六	696	昭和16年2月17日	一二三	松岡外務大臣より 在独国大島大使宛(電報)	タイ・仏印国境紛争の調停成立のため独国政府から仏側へ迅速かつ有効な措置を講じよう要請方訓令	919
八	833	昭和16年2月17日	四九	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	英国側の日英危機高調には米国の関心をタイ・仏印方面に向け英米提携の強化を狙う謀略的動機を含むとの観測通報	1138
八	834	昭和16年2月17日	八九	在シドニー秋山総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日本の蘭印攻略説に対し米英豪三国が警告発出を討議したとの報道について	1139
八	835	昭和16年2月18日	五一	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	南進問題や三国同盟に関するクレギー大使との意見交換について	1140
八	836	昭和16年2月18日	五二	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	極東危機説に関する英国側宣伝の経緯につき観測通報	1141
八	837	昭和16年2月18日	一一七	在英國重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	極東危機説をめぐる松岡外相対英覚書を手交について	1142
八	838	昭和16年2月18日	一一八	在英國重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	極東危機説に関する英国側宣伝の背景や効果につき観測報告	1145
二	95	昭和16年2月19日	二三	松岡外務大臣より 在サンダカン谷口領事宛(電報)	タワウ港閉鎖につき撤回交渉方訓令	139
五	537	昭和16年2月19日	一〇七	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	蘭印の輸出許可制導入に対し対日輸出を阻害しない旨の確約履行を要求方訓令	712
五	538	昭和16年2月19日	会商七八	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商の細目協議開始について	712
七	715	昭和16年2月19日	八三	在仏国原田臨時代理大使より 松岡外務大臣宛(電報)	東京での日仏印経済交渉を早急に妥結するよう仏国政府当局説得について	965

六 五 五 八 八 五 八 八 八 八 八 八

55

八 八

57

八	860	昭和16年3月1日	一一二	在米国野村大使より 松岡外務大臣宛(電報)	米独開戦の場合のわが方立場に関する野村大使の記者談話につき真相報告	1168
六	699	昭和16年3月2日		大本営政府連絡懇談会決定	「佛側カ我最後調停案ヲ應諾セサル場合ノ措置」	926
五	544	昭和16年3月3日	会商一〇一	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	細目協議で明瞭となった蘭印政府の根本態度につき報告	716
八	861	昭和16年3月3日	六七	松岡外務大臣より 在英國重光大使宛(電報)	チャーチル英國首相に対する回答覚書を修正の上遅滞なく手交方訓令	1169
八	862	昭和16年3月4日	六八	松岡外務大臣より 在英國重光大使宛(電報)	わが方には欧州大戦調停の意なき旨を近く公表の予定について	1169
五	545	昭和16年3月5日	会商一〇二	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	輸出許可制適用に対するわが方の是正要求と蘭側回答振りにについて	719
五	546	昭和16年3月5日	会商一〇三	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	細目協議における通商問題の討議内容報告	720
六	700	昭和16年3月5日		松岡外務大臣 在本邦アンリ仏国大使——会談	タイ・仏印国境紛争調停会議に関する三国共同コミュニケの發出をアンリ大使同意について	926
八	863	昭和16年3月5日	一五八	在英國重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	チャーチル英國首相に対し松岡外相の回答覚書を手交について	1169
八	864	昭和16年3月5日	一五九	在英國重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外相の回答覚書を手交の際にチャーチル英國首相が述べた所感について	1171
六	701	昭和16年3月6日			タイ・仏印国境紛争調停会議に関する日仏タイ三国共同コミュニケ	928

二	八	六	六	六	六	八	八	八
98	868	705	704	703	702	867	866	865
昭和 16年 3月 13日	昭和 16年 3月 11日	昭和 16年 3月 11日	昭和 16年 3月 11日	昭和 16年 3月 11日	昭和 16年 3月 11日	昭和 16年 3月 10日	昭和 16年 3月 7日	昭和 16年 3月 6日
七九	一三八					一七一	一九四	一八五
近衛臨時外務大臣事務管理より 在英国重光大使宛(電報)	在米国野村大使より 松岡外務大臣宛(電報)				付 記 調停条項の付属議事録	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)
タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令	タイ・仏印国境紛争の調停条項 日仏間に特殊緊密関係を樹立・増進する旨 の協定締結に関する交換公文 日タイ間に特殊緊密関係を樹立・増進する 旨の協定締結に関する交換公文 タイ・仏印国境紛争の調停成立に関する外 務当局談 極東に紛争発生の場合英国は米国の協力を 期待しうるとの英国大使内話について タワウ港閉鎖撤回および撤回までの暫定措 置として邦船の寄港許可を英国政府へ嚴重 申入れ方訓令
143	1175	934	933	931	930	929	1172	1171
						1173		928

三	196	昭和16年3月13日	八〇	近衛臨時外務大臣事務管理より 在英国重光大使宛(電報)	日英支払協定は日本案で妥結しなければ交渉を打切る方針について	288
五	547	昭和16年3月14日	会商一二〇	芳沢日蘭会商代表より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	細目協議における日本品割当および在留邦商取扱比率増加問題の討議内容報告	722
五	548	昭和16年3月15日	会商一二二	芳沢日蘭会商代表より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	錫・ゴムなど五品目の対日輸出問題に関する蘭側主張への回答振り回示方請訓	724
八	869	昭和16年3月15日	一一九	近衛臨時外務大臣事務管理より 在米国野村大使宛(電報)	日本が重大なる南進措置をとる場合英米蘭三国政府共同での対日警告声明発出に米国が賛同したとの情報について	1175
五	549	昭和16年3月16日	会商一二四	芳沢日蘭会商代表より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	石油問題に関する審議進捗や細目協議終了後の会商の進め方など蘭印経済長官と意見交換について	725
五	550	昭和16年3月17日	会商一二三	芳沢日蘭会商代表より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	日蘭会商わが方提案への蘭側全面承認は実現の見込みがなく入国・企業問題等に関する修正案の対蘭提議方請訓	726
				別電 昭和十六年三月十七日発芳沢日蘭会商代表より近衛臨時外務大臣事務管理宛 宛会商第一二五号 右修正案		727
				付記 昭和十六年三月十九日発芳沢日蘭会商代表より近衛臨時外務大臣事務管理宛 宛電報会商第一二八号 通商問題に関する修正案		729
五	551	昭和16年3月18日	会商五九	近衛臨時外務大臣事務管理より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	錫・ゴムなど五品目の対日輸出問題に関する蘭側主張への回答振り回訓	730
二	99	昭和16年3月25日	九三	近衛臨時外務大臣事務管理より 在英国重光大使宛(電報)	パレスチナでのわが方外交伝書使への不法行為事件を英国政府へ厳重抗議方訓令	144
二	100	昭和16年3月27日	二〇	在アジスアベバ池野領事事務代理より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	英軍がアジスアベバ侵入の際にはわが方領事館の去就は自由意思に任せるとの総督府通報について	144

732

三	197	昭和16年4月5日	一一六	近衛臨時外務大臣事務管理より 在英国重光大使宛(電報)	英国案を基礎とした日英支払協定交渉の継続方回訓	288
五	561	昭和16年4月5日	会商一五〇	芳沢日蘭会商代表より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	第二次提案に関する回訓には納得できず詳細協議のため帰朝許可方再度請訓	742
五	562	昭和16年4月5日	会商八〇	近衛臨時外務大臣事務管理より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	通商問題に関するわが方修正案につき回訓	744
八	872	昭和16年4月6日	九一	別電 昭和十六年四月五日発近衛臨時外務大臣事務管理より 会商第八一号 わが方の蘭印物産買付量に関する別表案	タイ・仏印国境紛争の調停成立は日英の衝突を惹起するとのビルマ有識階級の見解報告	1177
五	563	昭和16年4月8日	二七二	在バタビア石沢総領事より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	松岡外相の独伊訪問は蘭印との関係調整を益々困難にしているところ日蘭会商と対独提携強化の機微なる関係につき見解回示方請訓	746
五	564	昭和16年4月8日	会商八三	近衛臨時外務大臣事務管理より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	第二次提案提出は対日輸出货量に関する交渉結果を待つて検討し芳沢代表の帰朝は松岡外相帰朝まで延期方回訓	748
四	365	昭和16年4月9日	三八九	在独国大島大使より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	ギリシャおよびユーゴスラビアへの作戦開始に関する独国外相の説明について	480
四	366	昭和16年4月(11)日		在米国野村大使より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	米国によるグリーンランド使用に関する協定成立について	481
八	873	昭和16年4月11日	二五二	在英国重光大使より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	太平洋方面の平和確保に関する英国外務次官との意見交換について	1179
八	874	昭和16年4月16日	二六八	在英国重光大使より 近衛臨時外務大臣事務管理宛(電報)	チャーチル英首相より松岡外相宛メッセー ジを英国外務次官から受領について	1181

八 五 五 五 二 五 五 三 五

63

五	五	五	五	八	五	三	五	二	別電
576	575	574	573	876	572	199	571	102	昭和十六年四月二十二日發松岡外務大臣より在英国重光大使宛第一三九号 右書簡
昭和16年5月3日	昭和16年5月3日	昭和16年5月3日	昭和16年5月2日	昭和16年4月28日	昭和16年4月26日	昭和16年4月26日	昭和16年4月25日	昭和16年4月24日	
会商一九二	会商一九一	会商一〇六	会商一〇二	二五一	会商(マ)一八四	一四五	会商一八四	一七一	
芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	在伊国堀切大使より 松岡外務大臣宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	在エジプト鈴木公使より 松岡外務大臣宛(電報)	
蘭印産重要物資の買付交渉のみを分離して 行うことは不可能であり第二次要求案につ き至急回訓方要請	入国・企業等の問題に関する第二次要求案 につき至急回訓方要請	蘭印石油の買付量につき訓令	別電 昭和十六年五月二日發松岡外務大臣より芳沢日蘭会商代表宛会商第一〇三 号 右買付希望量	太平洋方面への戦争波及防止に向けたロー マ法王庁と米国政府との接触に関する情報 報告	近く武力解決の意向でなければ多少の不満 があつても日蘭会商は蘭側との妥協を計る べき旨意見具申	日英支払協定における日英為替相場の裁定 方法につき交渉方針訓令	蘭印重要物資の対日輸出割当に関する蘭側 讓歩内容について	アレクサンドリアおよびポートサイドの領 事館一時閉鎖要求を撤回するようエジプト 政府へ交渉について	
764	764	763	762	1184	760	289	759	145	1183

八	七	七	五	五	五	五	二
877	717	716	580	579	578	577	103
昭和16年5月6日	昭和16年5月6日	昭和16年5月6日	昭和16年5月6日	昭和16年5月6日	昭和16年5月6日	昭和16年5月5日	昭和16年5月4日
三七五			会商一一三	会商一一一	会商一〇九	会商一九五	一八〇
在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	条約	付記一「日佛印經濟協定要旨」 二 昭和十六年六月、仏印交渉事務室作成「日佛印經濟交渉要録」より抜粋 東京交渉におけるゴム・錫の交渉経緯	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	在エジプト鈴木公使より 松岡外務大臣宛(電報)
付記 付属議定書		日仏印經濟交渉妥結に関する情報局発表	錫・ゴムに関する交渉方針につき訓令	入国・企業等の問題は後日に譲るも致し方ないが、蘭印物資の対日輸入確保だけは至急妥結するよう交渉方訓令	別電 昭和十六年五月六日発松岡外務大臣より芳沢日蘭会商代表宛会商第一一〇号 右第二次要求案	入国・企業等の問題に関する第二次要求案につき回訓	アレクサンドリアおよびポートサイドの領事館閉鎖要求に対し在留邦人引揚げ方訓令
シンガポールから蘭印を経て豪州を結ぶ共同防衛線に関する英国提案に賛意を示した 蘭国外相のラジオ演説について	仏印に関する日仏居住航海条約	…	…	…	…	錫・ゴムおよび石油の対日輸出货量増加要求は妥結の見込み絶無のため再考方請訓	…
1184	978	969	967	966	769	765	146

三	200	昭和16年5月9日	在英国重光大使より 松岡外務大臣宛(電報)	英国が貿易に関する一般討議の切離しを求めらるゝのであれば日英支那協定交渉は打ち切りとすべき旨英国大蔵次官へ申入れについて	291
五	581	昭和16年5月9日	会商一九九 付 記 右会談で英国側が提出した交渉方針に関する覚書と訳文	錫・ゴムの対日輸入量交渉における蘭側の強硬姿勢に鑑み会商の決裂をも見越し第二次要求を提出する旨具申	770
六	706	昭和16年5月9日	議定書	保障および政治的理解に関する日仏議定書	936
六	707	昭和16年5月9日	議定書	保障および政治的理解に関する日タイ議定書	938
六	708	昭和16年5月9日	議定書	国境画定委員会の構成および運用に関する議定書	943
二	104	昭和16年5月13日	一七〇 松岡外務大臣より 在英国重光大使宛(電報)	非武装地帯に関する規定の履行に関する議定書	945
五	582	昭和16年5月14日	会商二〇一 付 記 昭和十六年五月十四日 右第二次要求和訳文	アレクサンドリアおよびポートサイドの領事館閉鎖要求撤回をエジプトへ勧告するよう英国政府へ申入れ方訓令	147
四	367	昭和16年5月18日	五五七 在独大島大使より 松岡外務大臣宛(電報)	わが方第二次要求を蘭側へ提出について	772
				英独和平の可能性に関する観測報告	483

二	107	昭和16年5月26日	二〇	付記	昭和十七年一月十六日、欧亜局第二課起案 「在「カサブランカ」帝國領事館再開ニ關スル件」	149
				在カサブランカ飯田領事代理より 松岡外務大臣宛(電報)	カサブランカ領事館の閉鎖再考方意見具申	148
五	588	昭和16年5月24日	会商二〇九	別電	昭和十六年五月二十四日發芳沢日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第二一〇号 右わが方提案	788
五	587	昭和16年5月23日	合一一一七	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表、在英国重光大使、 在米國野村大使宛(電報)	錫・ゴム問題での対蘭斡旋をクレイギー英國大使へ要請について	787
五	586	昭和16年5月22日	会商一二三	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商における蘭側の態度硬化に対し芳沢代表の召還等を検討している旨バプストへ通報について	786
二	106	昭和16年5月22日	四三四	松岡外務大臣より 在独國外務大使宛(電報)	パリへの総領事館設置を独國政府へ交渉方訓令	148
五	585	昭和16年5月21日	会商一二二	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	ゴムの対日全面禁輸を蘭側が決定したとの情報について	786
五	584	昭和16年5月21日	会商一二〇	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	わが方第二次要求を蘭側は全面的に拒絶するとの情報について	786
				付記	右第三表和訳文	784
五	583	昭和16年5月21日	会商二〇六	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	第二次要求付属の蘭印物資買付案(第三表)を蘭側へ提出について	783
二	105	昭和16年5月20日	五七二	在独國外務大使より 松岡外務大臣宛(電報)	パリにあるわが方大使館の閉鎖・引揚げを独國政府要求について	147

二	108	昭和16年5月27日	五九九	在独国外務大使より 松岡外務大臣宛(電報)	パリへの総領事館設置要請に対する独国側 回答振りについて	150
二	109	昭和16年5月29日	普通二〇五	在独国外務大使より 松岡外務大臣宛	独国の作戦地域拡大につき報告	151
五	589	昭和16年5月29日	会商一二九	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商に関する石井情報局第三部長の記 者談話につき通報	789
六	710	昭和16年5月29日	二〇六	別電 昭和十六年五月二十九日発松岡外務大臣より芳沢日蘭会商代表宛会商第一 三〇号 右談話内容	仏タイ調停関係諸条約および日仏印経済協 定の仏側批准を督促方訓令	789
七	718	昭和16年5月29日	一三二	松岡外務大臣より 在ハノイ林総領事宛(電報)	日仏印経済関係諸協定の実施に伴う関税措 置につき訓令	946
五	590	昭和16年5月31日	会商一三一	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商をめぐる大橋外務次官とオースト リア元副首相との会談内容通報	980
七	719	昭和16年5月31日	二〇九	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	仏印における援蒋物資の処分措置方訓令	981
三	201	昭和16年6月3日	五六〇	付記 作成局課、作成日不明 「佛印」に於ケル援蒋物資滞貨處分ニ對スル米國抗議ニ關スル件」	蘭印に対する本邦新聞の攻撃的報道が蘭印 の対日感情を刺激しているため対外配信の 抑制方を請	982
五	591	昭和16年6月1日	会商二一六	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	別電 昭和十六年六月一日発芳沢日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第二一七 号 右報道内容	790
					北氷洋航路開拓に対する便宜供与につきソ 連側の意向打診方訓令	791
						293

日付索引

五	五	五	五	二	五	八	七	五	八	三
597	596	595	594	110	593	879	726	592	878	202
昭和16年6月10日	昭和16年6月9日	昭和16年6月7日	昭和16年6月7日	昭和16年6月7日	昭和16年6月6日	昭和16年6月5日	昭和16年6月5日	昭和16年6月5日	昭和16年6月4日	昭和16年6月3日
会商二二九	四八四	会商二二七	合二二〇	一四八	会商二二二	三六七	四八三	会商二二九	一三〇	四七六
芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表、在英国重光大使、 在米国野村大使宛(電報)	松岡外務大臣より 在伊国堀切大使宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	在米国野村大使より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	松岡外務大臣より 在香港木村総領事代理宛(電報)	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)
わが方が買付けたドイツ物資のシベリア經由輸送が滞っている理由について	香港における対日輸出制限に関して 1 英国大使へ是正方申入れについて	第二次要求に対する蘭側回答の強硬な内容を想像させる蘭印紙の論調報告	南部仏印への軍事基地設立要求に当たり独仏関係緊密化の程度査報方訓令	ガソリンなど軍需品の対日輸出統制強化を検討中との米国国務長官の記者談話について	蘭側より第二次要求への回答提出について	クロアチア独立国の承認について	錫・ゴム問題に関する対蘭斡旋は功を奏さなかった旨クレイギー英国大使通報について	蘭側回答の受諾は不可能であり会商決裂を声明し代表部引揚げ方請訓	蘭印経済省がわが方に相談なく本邦商社を招致し蘭側回答に基づいた錫・ゴムの輸出許可を与えた旨報告	蘭側回答に関し蘭印経済長官と意見交換について
293	1185	791	990	1186	792	794	803	804	805	806

五	605	昭和16年6月17日	会商二四二	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商の打ち切りを蘭印総督に通告し共同 声明発出方合意について	816
五	604	昭和16年6月16日	会商一五〇	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商打ち切り手続きの詳細につき回訓	815
五	603	昭和16年6月15日	会商二三七	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商打ち切り手続きの詳細につき請訓	814
七	728	昭和16年6月14日	六八五	在独国外務大使より 松岡外務大臣宛(電報)	対仏交渉に独国の斡旋がなくとも実現を図 る決意ありや方針回示方請訓	991
五	602	昭和16年6月14日	合二二五六 (電報)	松岡外務大臣より 在米国野村大使、在独国外務大使宛	蘭印問題をめぐる大橋外務次官とクレーギ ー英国大使との意見交換について	813
五	601	昭和16年6月14日	会商一四八	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商打ち切り発表に関するわが方方針訓 令	812
				二 昭和十六年六月十四日発松岡外務大臣より芳沢日蘭会商代表宛会商第一四 四号 会商打ち切りに関する情報局第三部長談話案		811
				別電一 昭和十六年六月十四日発松岡外務大臣より芳沢日蘭会商代表宛会商第一四 六号 会商打ち切りに関する情報局発表案		811
五	600	昭和16年6月14日	会商一四七	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商打ち切りにつき回訓	810
五	599	昭和16年6月14日	三一八	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	ギルダール資金を利用した蘭印物産の至急買 付を政府決定の旨通報	809
七	727	昭和16年6月13日	三〇三	在仏国加藤大使より 松岡外務大臣宛(電報)	対仏交渉に独国利用は不得策であり直接交 渉をすべき旨意見具申	990
五	598	昭和16年6月11日	会商二三〇	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭側回答に関する蘭印経済長官との質疑内 容報告	806

七	729	昭和16年6月17日	五一九	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	南部仏印への軍事基地設立要求につき独国外相へ対仏斡旋を要請方訓令	992
七	730	昭和16年6月17日	六九八	別電 昭和十六年六月十七日發松岡外務大臣より在独国外務大臣宛第五二〇号 わが方の対仏要求事項 在独国外務大臣宛(電報)	独国外相との会談実施について	993
七	731	昭和16年6月17日	七〇七	松岡外務大臣宛(電報)	対仏要求に関する独国外相への斡旋要請に当たってはわが方の強固なる決意と要求目的を独側へ明示すべき意見具申	995
五	606	昭和16年6月18日	五	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	日蘭会商打ちりに関する共同声明	818
五	607	昭和16年6月18日	五三三	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	会商打ちり後も石油業者代表の残留方訓令	818
七	732	昭和16年6月19日	五三三	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	対仏要求への斡旋を独国外相へ至急要請し要求目的等については明示せず松岡外相を信頼するよう説明方訓令	996
五	608	昭和16年6月20日	三二五	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	蘭側最終回答の数量を超過する砂糖の買付に關し説明振り訓令	819
七	733	昭和16年6月20日	七三六	松岡外務大臣宛(電報)	南部仏印への軍事基地設立要求につき独国外相へ対仏斡旋要請について	996
七	734	昭和16年6月21日	七三九	在独国外務大臣宛(電報)	独国が対仏斡旋に成算なき場合のわが方対応振りにつき請訓	997
五	609	昭和16年6月22日	二五一	芳沢日蘭会商代表より 松岡外務大臣宛(電報)	石油問題は解決済みにつき石油業者代表は滞在の理由なき旨具申	819

七	735	昭和16年6月22日	五四九	松岡外務大臣より 在独国大島大使宛(電報)	別電 昭和十六年六月二十二日發芳沢日蘭会商代表より松岡外務大臣宛会商第二 五二号 石油問題に関する蘭印經濟長官回答	820
五	610	昭和16年6月24日	五三五	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	付記 昭和十六年六月二十四日發芳沢日蘭会商代表より松岡外務大臣宛電報会商 第二五五号 石油業者代表の帰国に同意した旨報告	821
五	611	昭和16年6月24日	会商一五九	松岡外務大臣より 芳沢日蘭会商代表宛(電報)	独国が対仏斡旋に見込みつかざる場合のわ が方意向を独側へ明示方訓令 蘭側最終回答の履行確約に関し蘭印総督等 から言質取付けについて	821
五	612	昭和16年6月24日	五三九	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	日蘭会商における芳沢代表の尽力に対し謝 意表明について	823
七	736	昭和16年6月25日		大本営政府連絡懇談会決定	独ソ開戦をめぐるホーフストラテンとの 意見交換について	824
五	613	昭和16年6月27日	会商二六〇	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	「南方施策促進ニ關スル件」	998
五	614	昭和16年6月27日	五五三	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	芳沢代表一行のバタビア出發について	825
七	720	昭和16年6月27日		閣議決定	日蘭会商随員の日本軍人三名を至急退去さ せるよう蘭側要請について	826
七	737	昭和16年6月27日	七八八	在独国大島大使より 松岡外務大臣宛(電報)	「佛印經濟調査計畫要綱」	984
五	615	昭和16年6月28日	五五七	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	仏印に対するわが方方針は独ソ開戦後も不 変なりや回示方請訓 随員軍人三名の蘭印滞在を七月十四日まで 認めるとの蘭側通報について	999
						827

七	744	昭和16年7月12日	二七三	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	仏印に対するわが方方針は独ソ開戦後も不 変の旨回訓	999
四	369	昭和16年7月12日	一四二	在ルーマニア筒井公使より 松岡外務大臣宛(電報)	事前協議のない調査団の派遣は認められな いとの仏印総督府回答について	986
七	743	昭和16年7月8日	二六三	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	仏タイ調停関係諸条約および日仏印経済協 定に関する枢密院本会議議事経過概要	946
七	742	昭和16年7月7日	三四七	在仏国加藤大使より 松岡外務大臣宛(電報)	対仏斡旋の成算に関する独国外相の内話報 告	999
七	741	昭和16年7月7日	八六〇	在独国外務大臣宛(電報)	対仏斡旋を差し控えるよう独国外相へ伝達 方訓令	1000
四	368	昭和16年7月7日	四七七	在米国外務大臣より 松岡外務大臣宛(電報)	米国を通じて独国外相の対英和平工作に関する 情報報告	484
七	740	昭和16年7月4日	六〇九	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	対仏斡旋を差し控えるよう独国外相へ伝達 方訓令	1000
七	739	昭和16年7月3日	八二八	在独国外務大臣より 松岡外務大臣宛(電報)	対仏斡旋の成算に関する独国外相の内話報 告	999
六	711	昭和16年7月3日				
七	721	昭和16年7月1日	二三五	在ハノイ林総領事より 松岡外務大臣宛(電報)		
七	738	昭和16年6月28日	五七四	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)		

二

昭和十六年七月十二日発松岡外務大臣より在仏国加藤大使宛第二七五号
仏印派遣部隊の使用通貨に関する要求案

1005

別電一 昭和十六年七月十二日発松岡外務大臣より在仏国加藤大使宛第二七四号
対仏申入れ内容

1003

南部仏印進駐に関し対仏申入れ方訓令

1001

独国の対米工作は謀略に過ぎざる旨観測報
告

485

対仏交渉はヴィシーで行うことが決定して
いる旨通報

1001

対仏要求に関する交渉は東京で開始され
た旨意見具申

1001

対仏斡旋を差し控えるよう独国外相へ伝
達について

1000

米国を通じて独国外相の対英和平工作に
関する情報報告

484

対仏斡旋を差し控えるよう独国外相へ
伝達方訓令

1000

対仏斡旋の成算に関する独国外相の内
話報告

999

仏タイ調停関係諸条約および日仏印
経済協定に関する枢密院本会議議事
経過概要

946

事前協議のない調査団の派遣は認め
られぬとの仏印総督府回答について

986

仏印に対するわが方方針は独ソ開戦
後も不変の旨回訓

999

七	750	昭和16年7月15日	六四六	松岡外務大臣より 在独国外務大臣宛(電報)	南部仏印進駐に関する対仏交渉成立の場合の国際約束取付け手順につき訓令	1012
五	617	昭和16年7月15日	六三二	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	わが方申入れの快諾を切望する旨のベタン仏国主席宛近衛総理メッセージ手交方訓令	828
四	370	昭和16年7月15日	五〇六	在米国外務大臣宛(電報)	仏印におけるドゴール派の画策に関する情報通報	486
七	749	昭和16年7月14日	二五五	在広東高津総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	仏印進駐の目的や蘭印・シンガポールに対する軍側意向に関する聞き込み情報報告	1011
五	616	昭和16年7月14日	六三三	在バタビア石沢総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	蘭側対日態度の緩和促進工作について	827
八	880	昭和16年7月12日	合二四九六	付記一 作成日不明、亜米利加局第一課作成 「米國ノ資金凍結令發動ノ場合ニ於ケル對策」 二 昭和十六年七月九日、大蔵省作成 「米國ニ於テ本邦ニ對シ資金凍結令ヲ發動シタル場合ノ對策ニ關スル件」	在米日本資金凍結の風説頻りにつき遺漏なく対処方訓令	1187
七	748	昭和16年7月12日	二五三	松岡外務大臣より 在米国外務大臣宛(電報)	在米日本資金凍結の風説頻りにつき遺漏なく対処方訓令	1187
七	747	昭和16年7月12日	二七九	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	仏印進駐の準備状況に関する軍関係者からの聞き込み情報報告	1010
七	746	昭和16年7月12日	二八〇	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	わが方申入れの快諾を切望する旨のベタン仏国主席宛近衛総理メッセージ手交方訓令	1007
七	745	昭和16年7月12日	二七七	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	南部仏印進駐に関する対仏交渉成立の場合の国際約束取付け手順につき訓令	1006
				三 昭和十六年七月十二日發松岡外務大臣より在仏国加藤大使宛第二七六号 仏側応諾の場合の交換公文案		1005

七	756	昭和16年7月17日	二八六	松岡外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	南部仏印進駐に関するわが方要求事項を仏 国副総理へ手交について	1012
七	755	昭和16年7月17日	四〇三	松岡外務大臣より 在タイ二見公使宛(電報)	付記 昭和十六年六月十二日、陸軍作成 「泰へ英國ノ武力進駐成起スルヤ否ヤノ判斷」	1020
五	618	昭和16年7月17日	三九八	松岡外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	蘭印産ゴムの対日輸出量に関する在本邦蘭 国公使館商務官との会談内容通報	829
七	754	昭和16年7月16日	三七〇	在仏国加藤大使より 松岡外務大臣宛(電報)	ペタン仏国主席へ近衛総理メッセージを手 交しわが方申入れの快諾を要請について	1017
七	753	昭和16年7月16日	合一五一八	松岡外務大臣より 在ハノイ林総領事、在サイゴン莫田 総領事宛(電報)	対仏交渉に伴うサイゴン在留邦人の引揚げ 措置につき訓令	1016
七	752	昭和16年7月16日	六五五	松岡外務大臣より 在独国大島大使宛(電報)	南部仏印進駐に関する対仏交渉の開始を独 伊両国大使へ通報について	1016
七				二 右仮訳文		1015
				付記一 昭和十六年七月十四日發在仏国加藤大使より松岡外務大臣宛電報第三六四 号 右わが方要求事項		1014
七	751	昭和16年7月15日	三六六	在仏国加藤大使より 松岡外務大臣宛(電報)		1012
七				別電一 昭和十六年七月十七日發松岡外務大臣より在仏国加藤大使宛第二八七号 共同防衛に関する議定書案		1021
				二 昭和十六年七月十七日發松岡外務大臣より在仏国加藤大使宛第二八八号 軍事上の協力に関する交換公文案		1022

七	760	昭和16年7月19日	二九五	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	南部仏印進駐に仏側の応諾を得られなければ軍事措置をとるのやむなきに至る旨仏国副総理へ説示について	1025
七	759	昭和16年7月19日	二九四	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	米国側に対日資金凍結発動の兆候は見られませんが政治的効果が認められる時にはいつでも発動の可能性がある旨意見具申	1189
八	882	昭和16年7月17日	三〇八	在ニューヨーク森島総領事より 松岡外務大臣宛(電報)	近く日本が南方へ進出するとの観測から米国官邸筋に対日経済圧迫措置を求める意見が高まっているとの情報報告	1190
五	619	昭和16年7月18日	六五四	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日本が南部仏印への基地獲得を進めているとの蘭印紙論説報告	830
七	758	昭和16年7月18日	二九三	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	南部仏印進駐に関するわが方要求の具体的内容について	1023
八	883	昭和16年7月18日	五一二	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	日本のインドシナ進出を英国外務次官が確実視し日英関係の前途を悲観しているとの情報報告	1191
二	111	昭和16年7月19日	七五三	豊田外務大臣より 在ソ連邦建川大使宛(電報)	ソ連による極東での航行危険区域設定に対し撤回方要求について	152
二	112	昭和16年7月19日	七五六	豊田外務大臣より 在ソ連邦建川大使宛(電報)	在欧本邦人のシベリア經由引揚げにつきソ連当局へ交渉方訓令	152
五	620	昭和16年7月19日	六三五	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	独ソ開戦を理由とした対日輸出货量増加要求に対する蘭側回答振り報告	830
七	759	昭和16年7月19日	二九四	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	松岡外相更迭がわが方対仏印政策に変化を及ぼすと仏側が期待しないよう措置方訓令	1024
七	760	昭和16年7月19日	二九五	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	日本軍の進発日時に基づく対仏交渉期限と仏側の諾否両様に対する措置振り訓令	1025

七	766	昭和16年7月21日	三九五	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	南部仏印進駐に関する回答は独国意向を確認しなければ実行不可能との仏国行政大臣の説明について	1036
七	762	昭和16年7月19日	三八二	付記 昭和十六年七月二十一日発豊田外務大臣より在独国大島大使宛電報第六七〇号 わが方要求受諾を仏国政府へ勧告方在本邦独国大使へ要請について	1027	
七	763	昭和16年7月20日	三八九	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	南部仏印進駐に関する回答は独伊両国の意向確認が必要であり数日間の回答猶予を仏国副総理要望について	1028
七	764	昭和16年7月20日	三九二	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	南部仏印への派兵期日切迫を仏国副総理へ伝えわが方提案の全面受諾を要請について	1029
七	765	昭和16年7月20日	三九三	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏国行政大臣が要求受諾を内示しわが方へ仏印領土保全の声明発出を要望について	1029
五	621	昭和16年7月21日	四〇八	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏印領土保全の確認および仏印軍は攻撃的企図には協力しないとの仏側申入れに対する容認の可否回示方請訓	1030
七				貿易統制令施行規則の発動理由に関するわが方説明振り通報	831	
七				別電 昭和十六年七月二十一日発豊田外務大臣より在バタビア石沢総領事宛第四〇九号 右規則の運用方針	833	
七				別電一 昭和十六年七月二十一日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛第三九六号 右受諾回答	1031	
				二 昭和十六年七月二十一日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛第三九七号 仏印の領土保全・主権尊重の宣言公表を求めた仏側口上書	1032	
					1034	

七	767	昭和16年7月21日	三九九	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	南部仏印進駐の合意に関する書簡案を仏国副総理へ提示し至急了承方要求について	1036
七	768	昭和16年7月21日	四〇〇	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏印領土保全の公表形式等に関する方針回示方請訓	1038
七	769	昭和16年7月[22]日	二九八	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	仏印領土保全の確認など仏国行政大臣側が内示した希望事項への対処振り訓令	1038
七	770	昭和16年7月22日	二九九	豊田外務大臣より 在仏国加藤大使宛(電報)	南部仏印進駐に関する仏側受諾回答への措置振り訓令	1039
七	771	昭和16年7月22日	四〇二	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	南部仏印進駐の合意に関する往復書簡の交換完了について	1040
				付記一 昭和十六年七月二十一日付在仏国加藤大使よりダルラン仏国外務大臣宛公信		1041
				右合意に関するわが方往信		
				二 昭和十六年七月二十二日付ダルラン仏国外務大臣より在仏国加藤大使宛公信		1043
				右合意に関する仏側返信		
				三 別電第三九八号仮訳文		1036
				二 別電第三九七号仮訳文		1035
				付記一 別電第三九六号仮訳文		1034
				三 昭和十六年七月二十一日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛第三九八号仏印共同防衛に際しての要望に関する仏側口上書		1034

七	779	昭和16年7月23日	四一〇	別電一 昭和十六年七月二十三日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛(電報)	1057
七	778	昭和16年7月23日	三〇四	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	1056
七	777	昭和16年7月23日 合一五八八		ア石沢総領事宛(電報) 豊田外務大臣より 在シンガポール鶴見総領事、在バタビ	1055
七	776	昭和16年7月23日	二六八	豊田外務大臣宛(電報) 在ハノイ林総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	1054
				南部仏印進駐に関する現地協定調印について	1054
				二 昭和十六年七月二十二日着澄田機関長発信電報 細目協議に向けた仏印総督との意見交換	1050
七	775	昭和16年7月23日	二六四	付記一 昭和十六年七月六日付 「陸軍少將澄田隼四郎二與フル訓令」	1050
八	884	昭和16年7月22日	四七八	在伊国堀切大使より 豊田外務大臣宛(電報)	1191
七	774	昭和16年7月22日	九三九	在独国外務大臣宛(電報) 豊田外務大臣より	1049
七	773	昭和16年7月22日	四〇九	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	1048
七	772	昭和16年7月22日	四〇六	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	1047
				南部仏印進駐に関し現地軍へ必要命令を発出するよう仏側へ申入れについて	1047
				南部仏印進駐の実施に当たっては仏側感情に十分の理解を示すよう配慮方意見具申	1048
				南部仏印進駐に関する対日回答の内容を仏国が対独通報した旨独国外相より通報について	1049
				日米国交調整交渉妥結の可能性増加を米国政府が法王庁に示唆したとの情報報告	1191
				南部仏印進駐に関する澄田機関の細目協議開始について	1050

八	885	昭和16年7月23日	三五一	在ニューヨーク森島総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日本軍の仏印進駐は確実と各紙が報じており対日経済圧迫措置の発動は免れがたき見込みについて	1192
五	622	昭和16年7月24日	六七一	在パタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印在留邦人の実情に鑑み援助対策確立方意見具申	834
七	780	昭和16年7月24日	四一九	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏側が撤兵時期の明示を希望したため作成した仏側受諾回答に対するわが方返信案について	1059
七	781	昭和16年7月24日	四一六	別電 昭和十六年七月二十四日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛第四二〇号 右返信案 在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏印での軍事協力に関する交換公文の協議妥結について	1060
七	782	昭和16年7月24日	四二七	別電一 昭和十六年七月二十四日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛第四一七号 右返信案 二 昭和十六年七月二十四日発在仏国加藤大使より豊田外務大臣宛第四一八号 右返信案の付加部分	仏印共同防衛に関する日本政府声明をタイ政府へ内報方訓令 仏印共同防衛に関する議定書の協議がほぼ妥結について	1061
七	783	昭和16年7月24日	四二七	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	日本軍の南部仏印進駐問題に関する米国情務次官の声明要訳	1062
七	784	昭和16年7月24日		付記 日仏合意成立に関する米国大使への申入れ案		1065

七	七	五	八	八	七	七	七	七	五	八
790	789	624	888	887	788	787	786	785	623	886
昭和 16年 7月 26日	昭和 16年 7月 26日	昭和 16年 7月 26日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 25日	昭和 16年 7月 24日
二三三		四三〇	五六八		四三三	六九六		三一七	六八〇	三五一
豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	付 記 昭和十六年七月二十六日 右に関する外務当局談	豊田外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	在米国外務大臣より 豊田外務大臣宛(電報)	豊田外務大臣 在本邦インデリ伊国大使——会談	在仏国外務大臣より 豊田外務大臣宛(電報)	在独国外務大臣より 豊田外務大臣宛(電報)	豊田外務大臣 在本邦アンリ仏国大使——会談	豊田外務大臣より 在仏国外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在ニューヨーク森島総領事より 豊田外務大臣宛(電報)
仏印共同防衛に関する日仏合意の成立を英 国大使へ通報について	………	蘭印におけるわが方ギルダール資金総額およ び米国の対日資産凍結が蘭印の対日輸出許 可に及ぼす影響報告方訓令	対日報復手段を明二十六日発表するとの米 国大統領領事明について	南部仏印進駐に関するコミュニケが発表さ れれば米国の対日強硬措置は回避されると の認識を豊田外相内話について	仏側受諾回答に対するわが方返信につき仏 側同意取付けについて	伊両国大使へ通報について	仏印共同防衛に関する日仏合意の成立を独 伊両国大使へ通報について	南部仏印進駐に関する仏側受諾回答へのわ が方返信発出を仏側が固執する場合の措置 振り訓令	日本軍の南部仏印進駐を懸念する蘭印紙論 調について	米国は日本が仏印の次に蘭印やマレー方面 へ進撃すると認めその予防のため経済圧迫 措置に出る可能性大との観測報告
1070	1069	835	1193	1193	1068	1068	1067	1066	835	1192

七	791	昭和16年7月26日	四四九	付記 右英国大使への申入れ案	...	1071
七	792	昭和16年7月26日	四三五	在タイ二見公使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏印共同防衛に関する日本政府声明をタイ政府へ内報について	1072
八	889	昭和16年7月26日		在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏側受諾回答に対するわが方返信を議定書の付属とする提議は仏側が撤回について	1072
				在本邦クレイギー英国大使より 豊田外務大臣宛	日英通商航海条約、日印通商条約および日緬通商条約の廃棄通告	1194
				付記一 昭和十六年七月二十六日、作成局課不明 「日英通商條約廢棄問題」	...	1195
八	890	昭和16年7月26日	五八三	二 作成日不明、通商局作成 インド・ビルマにおける日本資金凍結状況	...	1196
八	891	昭和16年7月26日	五八四	在米国野村大使より 豊田外務大臣宛(電報)	対日資金凍結令発表前の資金逃避状況など 西山財務官の内話報告	1197
八	892	昭和16年7月26日	五二六	在米国野村大使より 豊田外務大臣宛(電報)	日本船舶抑留等の意向に関し米国國務省へ照会について	1198
五	625	昭和16年7月27日	六八七	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	英国大蔵省が在英日本資金の凍結を横浜正金銀行へ通報について	1198
五	626	昭和16年7月27日	六九一	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	南部仏印進駐に対する蘭印各方面の反響報告	836
五	627	昭和16年7月28日	六九二	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日蘭印金融協定の停止をジャワ銀行より横浜正金銀行へ通告について	837
五	628	昭和16年7月28日	六九四	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日蘭印金融協定停止につき説明のため蘭印経済長官より会見申入れについて 対日資金凍結および対日輸出の全面的許可制実施を蘭印政府通報について	838

八	八	八	八	八	七	七	七	五	五	五
897	896	895	894	893	795	794	793	631	630	629
昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日	昭和 16年 7月 28日
五九三	三六三	二八七	一一九	四五三	四五四	三二九		六九七	六九六	六九五
在米 国外 務大 臣宛 (電報)	在ニ ュー ヨーク 森島 総領 事より	在ブラ ジル 石射 大使 より	在オ ース トラ リア 河相 公使 より	在タイ 二見 公使 より	在タイ 二見 公使 より	在タイ 二見 公使 より	在タイ 二見 公使 より	在バ タビ ア石 沢総 領事 より	在バ タビ ア石 沢総 領事 より	在バ タビ ア石 沢総 領事 より
資金凍結等の対日措置に関する蘭印政府の 説明要旨報告	資金凍結等の対日措置に関する蘭印経済長 官との会談内容報告	蘭印での対日資金凍結実施における蘭側と 英米との関係性につき観測報告	仏印共同防衛に関する日仏議定書について の枢密院審査委員会および本会議議事録 よび軍事上の協力に関する公文交換方訓令	タイが第三国への軍事基地ないし軍事的便 宜を提供した場合英タイ不可侵条約を無 効と認めると英国がタイ政府へ通告につい て	英米による資金凍結の適用を懸念しタイ政 府が通貨法改正に躊躇逡巡している旨報告	日英米関係は放置すれば戦争必至であり日 本軍がシンガポールを攻撃すれば豪州は必 ず抵抗するとの豪州首相との談話報告	ブラジル政府が同国内の日本資金凍結を米 国政府から強く求められたとの情報報告	米国の対日資金凍結令に関する新聞論調報 告	米国外務長官代理が日本船舶の同国出入港 許可や燃料供給の保障を言明について	
1202	1201	1200	1200	1199	1094	1094	1073	841	840	838

八	902	昭和16年7月30日	三四	在ウェリントン中藤総領事事務代理より 豊田外務大臣宛(電報)	対日為替および貿易取締に関する新手続きの公表をニュージールランド政府遷延につき………	1205
八	901	昭和16年7月30日 合一六七一	合一六七一	豊田外務大臣宛(電報) 在マニラ新納総領事、在バタビア石沢総領事他宛(電報)	日本船舶の積み荷代金につき任国政府から何らかの保障取付け方訓令………	1204
八	900	昭和16年7月29日	二三五	豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	日本船舶の英領諸港への入港に関する措置………	1204
七	798	昭和16年7月29日	四四四	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	………	1096
七	797	昭和16年7月29日	四四二	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	………	1095
七	796	昭和16年7月29日	二八二	在ハノイ林総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	………	1094
五	633	昭和16年7月29日	七〇〇	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	………	843
五	632	昭和16年7月29日	六九八	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	………	842
八	899	昭和16年7月28日	三七八	在シンガポール鶴見総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	………	1203
八	898	昭和16年7月28日	一一六	在カナダ吉沢公使より 豊田外務大臣宛(電報)	………	1202

八	903	昭和16年7月30日	四六七	在タイ二見公使より 豊田外務大臣宛(電報)	タイ首相および蔵相へ通貨法を即時改正し タイ通商関係の継続に必要な協定等を迅 速に締結するよう要請について	1206
八	904	昭和16年7月30日	三〇一	在ブラジル石射大使より 豊田外務大臣宛(電報)	米国の在伯日本資金凍結要請に対するブラ ジル政府の対応振りについて	1208
八	905	昭和16年7月30日	六一一	在米国外務大臣より 豊田外務大臣宛(電報)	米國諸港へ入港した日本船舶の積み荷に関 しては個々に処置し妥協はしないとの國務 長官代理の回答について	1209
八	906	昭和16年7月30日	三八六	在シンガポール鶴見総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	対日資金凍結令の在留邦人に与えた影響お よび応急措置について	1209
五	634	昭和16年7月31日	四三八	在バタビア石沢総領事宛(電報)	日蘭印金融協定の改訂につき提議方訓令	1244
五	635	昭和16年7月31日	四三九	在バタビア石沢総領事宛(電報)	船腹予約済み既約貨物の日蘭印間相互搬出 許可に関しパプスト公使へ提案について	1245
八	907	昭和16年7月31日 合一六八〇		豊田外務大臣より 在米国外務大臣宛、在オーストラリア河 相公使、在バタビア石沢総領事宛 (電報)	日本船舶の積み荷代金につき任国政府から 何らかの保障取付けまでは貨物の積み卸し を差し控える方針について	1210
八	908	昭和16年7月31日	六一八	在米国外務大臣より 豊田外務大臣宛(電報)	対日資金凍結を新段階とする在米外務機構 の調整につき意見具申	1211
八	909	昭和16年7月31日	五三九	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	在本邦英国人の個人預金に対する外国人関 係取引取締規則の適用緩和方請訓	1212
				付記 作成年月日、作成局課不明 外国人関係取引取締規則の実施状況		1213

八	910	昭和16年7月31日	九一	在コルカタ岡崎総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	対日資金凍結令の在留邦人に与えた影響および応急措置について	1214
五	636	昭和16年8月1日	七二三	別電 昭和十六年八月一日発在コルカタ岡崎総領事より豊田外務大臣宛第九二号 対日資金凍結措置に関する新聞論調	南部仏印進駐を受けて対日関係を根本的に再検討するとのホーフストラーテン内話について	1215
五	637	昭和16年8月1日	七二四	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	既約貨物搬出問題や石油協定の履行に関して ホーフストラーテンと意見交換について	847
五	638	昭和16年8月1日	七二五	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印在留邦人の指導方針につき意見具申	849
五	639	昭和16年8月1日	七一九	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印におけるわが方ギルダー資金総額報告	851
五	640	昭和16年8月1日	七二八	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印の対日輸出制限への対抗策具申	851
八	911	昭和16年8月1日	七一一	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印に戦争の脅威が発生すれば同盟国と協力して抵抗するとの蘭国女王のラジオ声明について	1216
八	912	昭和16年8月2日	六二八	在米岡野村大使より 豊田外務大臣宛(電報)	対日資金凍結令に関する米国世論の動向報告	1216
五	641	昭和16年8月3日	七三七	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	米国の対日石油禁輸措置に関する蘭印紙論説報告	851
八	913	昭和16年8月5日	二四一	豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	在本邦英国人の個人預金に対する規則適用免除は不可能だが運用で事実上英側と同等の取扱いをなすべき旨回訓	1217
五	642	昭和16年8月6日	四五六	豊田外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	凍結資金を解除し蘭印物資の買付代金とする案を蘭側へ提示方訓令	852

三	八	八	八	八	八	七	五	五	八	八
203	920	919	918	917	916	722	644	643	915	914
昭和 16年 8月 12日	昭和 16年 8月 11日	昭和 16年 8月 11日	昭和 16年 8月 9日	昭和 16年 8月 9日	昭和 16年 8月 9日	昭和 16年 8月 8日	昭和 16年 8月 8日	昭和 16年 8月 8日	昭和 16年 8月 7日	昭和 16年 8月 6日
五六四	五〇五		五五五	一四九	七六七	四五三	四六六	七六五	四九六	七五〇
豊田外務大臣宛(電報)	在マニラ新納総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	付記 昭和十六年八月七日着在英国上村臨時代理大使より 情倫敦第一一一号 八月六日の英国外相下院演説要旨	在英國上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	在オーストラリア河相公使より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビヤ石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	豊田外務大臣より 在バタビヤ石沢総領事宛(電報)	在バタビヤ石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在マニラ新納総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビヤ石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)
日英清算協定に関する英国側提議に應じる べき旨意見具申	日米開戦の場合の在留邦人の保護手段につ きフィリピン大統領と意見交換について	日英関係の緊張緩和に向けタイ問題での討 議実施をクレイギー大使が私的提議につい て	極東の危機切迫に関する英国報道振り報告	仏印・タイをめぐる日英関係緊迫化に関し 豪州首相との意見交換報告	タイ問題をめぐる英米両国の対日態度に関 する蘭印紙の報道振り報告	仏印への資源調査団派遣に関する仏国当局 との協議について	在本邦蘭商の代金支払い済み滞貨に関し蘭 側が指摘した総額には誤りがある旨通報	凍結資金解除問題に関する蘭印当局との会 談要旨報告	日本のタイ進出に関する報道をめぐるフィ リピンの世論動向報告	シンガポール、蘭印への脅威急迫の報道に 対する蘭印の世論動向報告
294	1230	1228	1222	1221	1220	1219	855	853	1219	1218

七	723	昭和16年8月12日	四五八	在仏国加藤大使より 豊田外務大臣宛(電報)	仏印への資源調査団派遣を仏国承諾について	987
三	204	昭和16年8月15日	二五一	豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	英国の日英清算協定提議に対する対処振り訓令	295
八	921	昭和16年8月15日		大本営政府連絡会議決定	「泰二關スル對英交渉要綱」	1231
八	922	昭和16年8月15日	五七二	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	日英清算協定交渉への影響にも鑑み在本邦英国人の個人預金に対する規則緩和方請訓	1232
八	923	昭和16年8月16日		付記 昭和十六年八月十六日 右に関する外務当局談話	在タイ日本公使館の昇格に関する情報局発表	1233
三	205	昭和16年8月18日	五八一	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	日英清算協定に関する横浜正金銀行と英蘭銀行との交渉状況報告	296
三	206	昭和16年8月18日	五八四	別電 昭和十六年八月十八日發在英国上村臨時代理大使より 英国側提示の協定案 八二号	日英関係の将来にも鑑み日英清算協定妥結意見具申	297
八	924	昭和16年8月18日	二五四	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	英国の対日禁輸報道に関し真相査報方訓令	1235
五	645	昭和16年8月19日	八五二	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日本軍の南部仏印進駐が蘭印政府の対日石油政策の根本的变化をもたらしたとのホーフストラーテン内話について	856
三	207	昭和16年8月21日	二六五	豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	タイ問題との関連から日英清算協定の調印は暫く見合わせる旨訓令	299

三	二	八	五	五	二	八	三
209	114	926	647	646	113	925	208
昭和16年8月26日	昭和16年8月26日	昭和16年8月25日	昭和16年8月24日	昭和16年8月23日	昭和16年8月23日	昭和16年8月22日	昭和16年8月22日
二七三			八七四	五一四		三六二	五九三
豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	在ソ連邦建川大使より 豊田外務大臣宛(電報)	豊田外務大臣 在本邦クレギー英国大使——会談	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	別電 昭和十六年八月二十三日發豊田外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	別電 昭和十六年八月二十三日發豊田外務大臣より 右申入れ内容	在ブラジル石射大使より 豊田外務大臣宛(電報)	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)
日英清算協定に對する交渉方針を閣議決定した旨通報	米国の在伯日本資金凍結要請はドル資金のみが対象でありブラジル政府は対日資金凍結を行わない見通しについて	南部仏印進駐や対日包圍陣の形成など日英關係緊迫化の原因に関する豊田・クレギー間の意見交換について	三国同盟と南部仏印進駐が蘭側対日態度を硬化させており対蘭印政策およびわが方燃料政策を刷新すべき旨意見具申	鉾区提供拒否など蘭印政府の対日石油政策に對しパプスト公使へ抗議申入れについて	米国の援ソ物資の日本海およびウラジオストク通過につきソ連政府へ申入れ方訓令	米国の在伯日本資金凍結要請はドル資金のみが対象でありブラジル政府は対日資金凍結を行わない見通しについて	日英清算協定交渉が打切りとならぬよう配慮方意見具申
302	154	1235	858	857	153	1235	300

三	210	昭和16年8月27日	二七四	豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	日英清算協定に対する交渉方針につき訓令……	302
五	648	昭和16年8月29日	一六六一 二〇九五	石黒商工省貿易局長官より 水野通商局長宛	貿易統制令施行規則の対蘭印運用を緩和したことに見合うよう蘭印側に対日輸出改善を交渉方要請	859
五	649	昭和16年9月2日	九〇二	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印におけるわが方華僑工作の現状報告……	860
八	927	昭和16年9月2日		豊田外務大臣 在本邦クレイギー英国大使——会談	英国首相の下院演説やインド政府の対日措置などに関する豊田・クレイギー間の意見交換について	1241
五	650	昭和16年9月3日	九五	付 記 昭和十六年八月二十四日 右英国首相下院演説抜粋 在メダン野々村領事より 豊田外務大臣宛(電報)	……	1247
五	651	昭和16年9月3日	九一四	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	蘭印の資金凍結が在留邦人へ与えた打撃にも鑑み蘭印に対する断固たる方針を至急決定方意見具申	862
三	211	昭和16年9月4日	六一八	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	凍結資金解除や輸出許可に関する対日折衝での蘭側の遷延的態度につき交渉担当者の観測報告	863
七	799	昭和16年9月4日	六〇五	在タイ坪上大使より 豊田外務大臣宛(電報)	日英清算協定交渉を政府間交渉にするとの英側通報について	302
二	115	昭和16年9月6日	二八六	豊田外務大臣より 在英国上村臨時代理大使宛(電報)	南部仏印進駐のタイに与えた影響につき観測報告	1098
				付 記 昭和十六年九月十一日、欧亜局第三課作成 「英領在留邦人引揚ノ爲船舶派遣ノ件」	引揚げ船の日英相互就航を英国提議について	155
					……	155

二	七	二	二	二	八	五	五	八	五
119	800	118	117	116	929	654	653	928	652
昭和 16年 9月 25日	昭和 16年 9月 24日	昭和 16年 9月 23日	昭和 16年 9月 18日	昭和 16年 9月 18日	昭和 16年 9月 17日	昭和 16年 9月 17日	昭和 16年 9月 12日	昭和 16年 9月 11日	昭和 16年 9月 6日
一一二	一〇三二	二五六	六五〇			九九七	五七五	一二三	九三八
在アフガニスタン小林公使より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在イラン市河公使より 豊田外務大臣宛(電報)	在英国上村臨時代理大使より 豊田外務大臣宛(電報)	天羽外務次官 在本邦クレーギー英国大使 ——会談	天羽外務次官 在本邦クレーギー英国大使 ——会談	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	豊田外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	在スペイン須磨公使より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)
禁止措置報告	仏印の現状に関するオランダ人談話報道につき報告	付記 太田欧亜局第三課長作成、作成日不明 「英」ソノ「イラン」侵入ニ付テ	本邦船の欧州回航を契機とする対英貿易交渉は時期尚早の旨具申	付記 昭和十六年九月十八日、条約局第二課作成 「大公使館ノ庇護權ニ關スル件」	在イラン日本公使館内の独国人引渡し要求に対し英国大使へわが方見解を説明について	対日輸出許可の新方針回答方蘭印政府へ督促について	ホーフストラーテン発言につきバブスト公使の誤解を解消し蘭印政府の対日石油政策に関するわが方抗議への回答督促について	対独参戦をにらんだ米米政府の日米国交調整交渉への対処方針など米米関係筋からの諜報報告	南部仏印進駐に関するホーフストラーテンの私的発言につきバブスト公使の誤解解消方要望について
164	1100	162	160	159	157	866	865	1247	864

二	120	昭和16年9月25日	一一三	在アフガニスタン小林公使より 豊田外務大臣宛(電報)	インドにおけるわが方領事館への暗号使用 禁止措置報告(続報)	165
				付記一 昭和十六年九月十七日、天羽外務次官・在本邦クレイギー英国大使会談要 旨より抜粋 「在印帝國領事館ノ暗號使用禁止問題」		166
八	930	昭和16年9月26日		二 昭和十六年九月二十五日発豊田外務大臣より在ラングーン磯野総領事宛電 報第一三三三号 右措置へのわが方対処振り通報		167
八	931	昭和16年9月26日	四五二	天羽外務次官 在本邦クレイギー英国大使——会談	日米国交調整交渉に関する天羽・クレイギ ー間の意見交換について	1251
八	932	昭和16年9月27日	二二五	在ニューヨーク森島総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日米国交調整交渉に関するワシントン方面 の意識につき諜報報告	1254
八	933	昭和16年9月30日		在オーストラリア河相公使より 豊田外務大臣宛(電報)	豪州政府が対日経済圧迫の緩和に応じる気 配はなく暫く静観方意見具申	1256
二	121	昭和16年10月1日	八五七	豊田外務大臣より 在独国外務大使宛(電報)	蘭印情勢および日米国交調整交渉の蘭印・ フィリピン・豪州での反響に関する豊田外 相閣議説明資料	1257
五	655	昭和16年10月9日	一〇八四	付記 昭和十六年九月二十日付 右廃止に関する枢密院の審査報告	在ポーランド日本大使館の廃止を枢密院で 可決の旨通報	167
				在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	日蘭印間バーター貿易に関する蘭側提案に ついて	866
				別電 昭和十六年十月八日発在バタビア石沢総領事より豊田外務大臣宛第一〇八 五号 右提案をめぐる蘭側との会談内容		867

二	七	五	七	五	八	二	五	八	五	五	五
123	725	661	724	660	935	122	659	934	658	657	656
昭和 16年 10月 30日	昭和 16年 10月 29日	昭和 16年 10月 29日	昭和 16年 10月 23日	昭和 16年 10月 23日	昭和 16年 10月 22日	昭和 16年 10月 22日	昭和 16年 10月 19日	昭和 16年 10月 17日	昭和 16年 10月 15日	昭和 16年 10月 11日	昭和 16年 10月 9日
二三五	資源一四	六八二	資源八	一一三八		二二五	一一二八	四二五	一一一二	一〇九三	一〇八六
在パナマ秋山公使より 東郷外務大臣宛(電報)	横山仏印資源調査団長より 東郷外務大臣宛(電報)	東郷外務大臣より 在バタビア石沢総領事宛(電報)	内山仏領印度支那派遣公使より 東郷外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 東郷外務大臣宛(電報)	在英国重光大使 在本邦クレイギー英国大使 ——会談	在パナマ秋山公使より 東郷外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 東郷外務大臣宛(電報)	在広東吉岡総領事代理より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)	在バタビア石沢総領事より 豊田外務大臣宛(電報)
蘭印の対日資金凍結の不合理を指摘し日蘭 関係改善に積極的に努力する道義的理由な く近く帰朝する旨蘭側へ通報について	日蘭印間バーター貿易案への対応振り請訓	一船ごとのバーター取引を提案すれば交渉 決裂のおそれがあり蘭側提案受諾のやむな き旨意見具申	南方作戦の準備状況に関する海軍側内話情 報報告	一船ごとのバーター取引提案に対する蘭側 回答振り報告	米国の対ソ援助に日本が対抗策をとる場合 にはパナマは対米協調措置をとるとの同国 外相の発言について	日本が近隣地域に発展を求めるに至ったの は英米等の対日経済圧迫政策の結果である と重光大使論及について	日蘭印間の貿易継続のためにはわが方の根 本方針提示が必要の旨意見具申	資源調査団への協力を仏印総督府了承につ いて	対蘭印貿易に関する根本方針の提示は不可 能の旨回訓	資源調査に関し仏印当局と意見交換につい て	日本を含む枢軸国に対するパナマ政府の強 硬態度について
169	988	877	988	874	1260	169	872	1259	871	871	869

八	939	昭和16年11月18日	一二三三	在バタビア石沢総領事より 東郷外務大臣宛(電報)	東条首相および東郷外相の施政演説に反発し太平洋の危機を高調した蘭印紙論調報告	1266
五	668	昭和16年12月1日	一三〇一	在バタビア石沢総領事より 東郷外務大臣宛(電報)	太平洋の戦火が避けられないと論断し国民の一致団結を訴える蘭印紙論調報告	884
五	669	昭和16年12月1日	一六九	在スペイン須磨公使より 東郷外務大臣宛(電報)	日米会談決裂の場合はいち早く蘭印を攻略し石油補給を確保すべき旨意見具申	885
八	940	昭和16年12月3日	五一七	在広東高津総領事より 東郷外務大臣宛(電報)	日本軍の南方進撃路がフィリピンを含まな い場合は米国参戦を遷延させるため米国権 益処理も延期するよう軍側を説得方意見具 申	1267
五	670	昭和16年12月5日	一三二七	在バタビア石沢総領事より 東郷外務大臣宛(電報)	蘭印在留邦人の引揚げ方針請訓	885
七	801	昭和16年12月7日	一七一	芳沢仏領印度支那派遣大使より 東郷外務大臣宛(電報)	仏印との軍事協定締結の意向を海軍駐在武 官が内示について	1100
				付記一 昭和十六年十二月八日発芳沢仏領印度支那派遣大使より東郷外務大臣宛電 報第一七四号 仏印総督へ陸海両武官が軍事協定案手交について		1101
				二 昭和十六年十二月十一日着芳沢仏領印度支那派遣大使より東郷外務大臣宛 電報第一八三号 仏印との軍事協定調印について		1102